



大 学 院 案 内

RITSUMEIKAN GRADUATE SCHOOL GUIDE

2 0 2 5

Futurize.

きみの意志が、未来。

立命館大学

立 命 館 憲 章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類的諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

Contents

立命館大学大学院 研究科の概要	02	食マネジメント研究科	29
Topic1 大学院生活	05	理工学研究科	30
Topic2 修了生からのメッセージ	09	生命科学研究科	31
Topic3 Faculty voice	10	薬学研究科	32
Topic4 キャリアパス形成支援	11	経営学研究科	33
Topic5 大学院生の進路・就職	13	政策科学研究科	34
Topic6 立命館の研究力	15	人間科学研究科	35
Topic7 立命館の国際性	17	映像研究科	36
社会人のみなさんへ	19	情報理工学研究科	37
研究科紹介		テクノロジー・マネジメント研究科	38
法学研究科	21	経営管理研究科[ビジネススクール]	39
社会学研究科	22	法務研究科[法科大学院]	40
国際関係研究科	23	教職研究科[教職大学院]	41
文学研究科	24	お問い合わせ先	42
言語教育情報研究科	25	学費について	43
先端総合学術研究科[5年一貫制博士課程]	26	大学院入試 出願の流れ	47
経済学研究科	27	各キャンパスへのアクセス	49
スポーツ健康科学研究科	28	立命館大学大学院に関する情報の入手方法	50

立命館大学大学院 研究科の概要

(2024年3月現在)

衣笠
CAMPUS



	課程	専攻	学位	入学定員
法学研究科 Graduate School of Law	博士課程前期課程	法学専攻	修士(法学)	60名
	博士課程後期課程	法学専攻	博士(法学)	10名
社会学研究科 Graduate School of Sociology	博士課程前期課程	応用社会学専攻	修士(社会学)	60名
	博士課程後期課程	応用社会学専攻	博士(社会学)	15名
国際関係研究科 Graduate School of International Relations 9 E	博士課程前期課程	国際関係学専攻	修士(国際関係学)	60名
	博士課程後期課程	国際関係学専攻	博士(国際関係学)	10名
文学研究科 Graduate School of Letters 9	博士課程前期課程	人文学専攻	修士(文学)	70名
		行動文化情報学専攻	修士(文学)	35名
	博士課程後期課程	人文学専攻	博士(文学)	20名
		行動文化情報学専攻	博士(文学)	15名
言語教育情報研究科 Graduate School of Language Education and Information Science 9 ☀	修士課程	言語教育情報専攻	修士(言語教育情報学)	60名
先端総合学術研究科 Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences 9	一貫制博士課程	先端総合学術専攻	博士(学術)	30名

びわこ・くさつ
CAMPUS



経済学研究科 Graduate School of Economics 9 E	博士課程前期課程	経済学専攻	修士(経済学)	50名
	博士課程後期課程	経済学専攻	博士(経済学)	5名
スポーツ健康科学研究科 Graduate School of Sport and Health Science	博士課程前期課程	スポーツ健康科学専攻	修士(スポーツ健康科学)	25名
	博士課程後期課程	スポーツ健康科学専攻	博士(スポーツ健康科学)	8名
食マネジメント研究科 Graduate School of Gastronomy Management	博士課程前期課程	食マネジメント専攻	修士(食マネジメント)	20名
	博士課程後期課程	食マネジメント専攻	博士(食マネジメント)	3名
理工学研究科 Graduate School of Science and Engineering 9 E	博士課程前期課程	基礎理工学専攻	修士(理学) 修士(工学)	50名
		電子システム専攻	修士(工学)	140名
		機械システム専攻	修士(工学)	140名
		環境都市専攻	修士(工学)	120名
	博士課程後期課程	基礎理工学専攻	博士(理学) 博士(工学)	6名
		電子システム専攻	博士(工学)	8名
		機械システム専攻	博士(工学)	11名
		環境都市専攻	博士(工学)	15名
生命科学研究科 Graduate School of Life Sciences 9 E	博士課程前期課程	生命科学専攻	修士(理学) 修士(工学)	150名
	博士課程後期課程	生命科学専攻	博士(理学) 博士(工学)	15名
薬学研究科 Graduate School of Pharmacy	博士課程前期課程	薬科学専攻	修士(薬科学)	20名
	博士課程後期課程	薬科学専攻	博士(薬科学)	3名
	博士課程 ☀ ☾	薬学専攻	博士(薬学)	3名

大阪いばらき
CAMPUS



経営学研究科 Graduate School of Business Administration	博士課程前期課程	企業経営専攻	修士(経営学)	60名
	博士課程後期課程	企業経営専攻	博士(経営学)	15名
政策科学研究科 Graduate School of Policy Science 9 E	博士課程前期課程	政策科学専攻	修士(政策科学)	40名
	博士課程後期課程	政策科学専攻	博士(政策科学)	15名
人間科学研究科 Graduate School of Human Science ☀ ☾	博士課程前期課程	人間科学専攻	修士(人間科学) 修士(心理学)	65名
	博士課程後期課程	人間科学専攻	博士(人間科学) 博士(心理学)	20名
映像研究科 Graduate School of Image Arts	修士課程	映像専攻	修士(映像)	10名
情報理工学研究科 Graduate School of Information Science and Engineering 9 E	博士課程前期課程	情報理工学専攻	修士(工学)	200名
	博士課程後期課程	情報理工学専攻	博士(工学)	15名
テクノロジー・マネジメント研究科 Graduate School of Technology Management 9 ☀	博士課程前期課程	テクノロジー・マネジメント専攻	修士(技術経営)	70名
	博士課程後期課程 E	テクノロジー・マネジメント専攻	博士(技術経営)	5名
経営管理研究科[ビジネススクール] ☀ ☾ Graduate School of Management	専門職学位課程	経営管理専攻	経営修士(専門職)	80名
		観光マネジメント専攻	観光経営修士(専門職)	70名

朱雀
CAMPUS



法務研究科[法科大学院] School of Law	専門職学位課程	法曹養成専攻	法務博士(専門職)	70名
教職研究科[教職大学院] ☀ ☾ Graduate School of Professional Teacher Education	専門職学位課程	実践教育専攻	教職修士(専門職)	35名

- ☀ 夜間にも講義を行っています。詳細は各研究科のウェブサイトをご覧ください。各研究科事務室までお問い合わせください。
- E 授業を英語で行う科目のみで学位取得に必要な単位を修得できる研究科および課程
- 9 4月入学に加え、9月入学も実施している研究科(対象となる課程や専攻の詳細は各研究科の入試要項を確認願います)

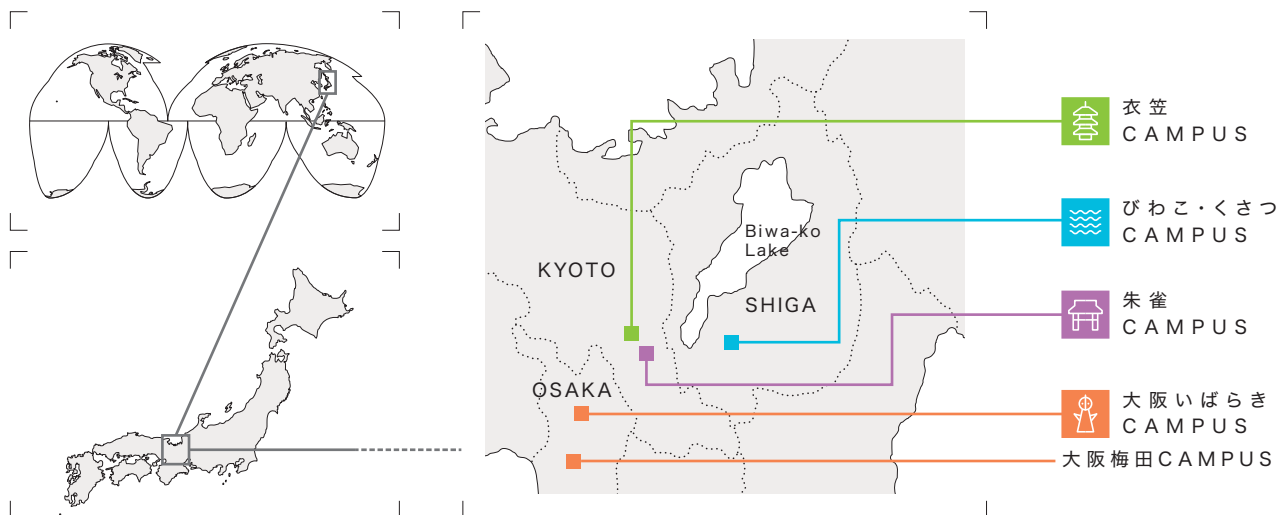
地域に根ざし、世界と協働する 教育・研究を支える4つのキャンパス

日本の文化、政治、経済の中心地として長らく栄えてきた関西。

日本の歴史を受け継ぐ世界遺産や国宝を数多く有するだけでなく、古都京都、自然豊かな滋賀、ビジネスの街大阪、と象徴されるように、さまざまな個性と魅力をあわせもち、世界を代表する国際都市として日々発展を続けています。

それぞれ特色あるエリアに配置した4つのキャンパスで相互連携し、

人類・自然・地域社会の発展に貢献する最先端の取り組みに挑戦しています。



■大学院生の学修・研究環境

立命館大学では、大学院生の多様な研究スタイルに対応できる環境の整備を進めています。

個人で学修・研究を集中して行える 「研究スペース」

静寂性に配慮したクローズな空間として大学院共同研究室を整備。パーティションで仕切られたキャレルデスクで論文執筆や発表資料作成などを落ち着いて進めることができます。



大学院共同研究室 (OIC)

グループでの作業やミーティングで活用できる 「打ち合わせスペース」

共同研究などでグループ作業を行う際や簡単なミーティングをすることが出来るスペースを整備。パソコンやプリンターもあります。



究論館打ち合わせスペース (衣笠)

研究成果を発信して研究科を越えた交流を促進する 「コミュニケーションスペース」

オープンな形式でのセミナーやプレゼンテーション、ポスターセッションを開催するなど、研究科を越えてコミュニケーションが図れるスペース。キッチンやカウンターも完備し、一息つけるラウンジとしての空間もあります。



究論館パフォーミングスペース (衣笠)

日本国内有数の蔵書冊数を誇る 「図書館・資料室」

蔵書冊数は私立大学トップクラス(約345万冊)、各資料室には専門性の高い研究資料を多く所蔵。大学院生は100冊を100日間借りることができます。



平井嘉一郎記念図書館 (衣笠)

■ キャンパス紹介



京都／衣笠CAMPUS

古都・京都の歴史と文化が息づく、
多様な人文社系研究科が集まるキャンパス

古くから日本の中心として、長く厚みのある歴史をもち、多くの文化遺産に囲まれた地、京都。その中でも、古都の名刹に囲まれた閑静なエリアに位置し、日本の伝統や文化に触れながら先端の研究を世界へ発信する、伝統と創生のキャンパス。

- 法学研究科 ●社会学研究科 ●国際関係研究科 ●文学研究科
- 言語教育情報研究科 ●先端総合学術研究科



滋賀／びわこ・くさつCAMPUS

豊かな自然を活かし、国際水準の教育・
研究環境を備えたキャンパス

私立大学最大級の理系教育・研究施設を備えるびわこ・くさつキャンパス（BKC）は、琵琶湖を含む大自然や、企業の研究施設が近くに位置する立地を活かした研究活動を実施しています。世界標準の教育研究、知見、技術を創出し、世界・地域へ発信するイノベティブ・キャンパス。

- 経済学研究科 ●スポーツ健康科学研究科 ●食マネジメント研究科
- 理工学研究科 ●生命科学研究科 ●薬学研究科



大阪／大阪いばらきCAMPUS

商都・大阪で教育・研究のフィールドを
アジアへと広げるキャンパス

大阪いばらきキャンパス（OIC）は、「アジアのゲートウェイ」として国際的な学びの拠点として位置づけています。また、「商都・大阪」という地域性を活かして、地域・社会と連携した教育・研究を進化させている最新のキャンパス。

- 経営学研究科 ●政策科学研究科 ●人間科学研究科 ●映像研究科
- 情報理工学研究科 ●テクノロジー・マネジメント研究科
- 経営管理研究科 [ビジネススクール]

■サテライトキャンパス 大阪梅田CAMPUS
大阪・梅田駅前に位置する、アクセス至便のキャンパス

社会的ネットワークの強化や就職支援に加え、
学び・研究の拠点として大学院の授業を展開。
多目的に利用できる最新設備を備えています。

- 経営管理研究科 [ビジネススクール]
- テクノロジー・マネジメント研究科
- 言語教育情報研究科



京都／朱雀CAMPUS

京都の歴史・文化と、都市の利便性・
充実の研究設備をあわせもつキャンパス

専門職大学院を抱え、多様な研究スタイルに応える充実した研究設備や自習環境を備えています。古都・京都の中心部に位置し、京都の歴史・文化に触れながら、都市型キャンパスの利便性をあわせもつキャンパス。

- 法務研究科 [法科大学院]
- 教職研究科 [教職大学院]

大学院における研究活動の流れ

		博士課程前期(修士)課程	博士課程後期課程	専門職学位課程 (経営管理研究科)
1年目	春学期	- 授業選択 - 修士論文のテーマを見つける		- コア科目を中心に履修 - 夏集中科目を受講
	秋学期	- 就職活動の準備、情報収集 - 修士論文のテーマを絞る - 勉強会への参加 - 就職活動準備	CHECK! 博士課程後期課程に進学する場合は 2年目に入学試験を受験します。	選択科目を中心に履修
2年目	春学期	- 学会参加、発表 - 就職活動 - 修士論文の研究計画書の立案		- 研究レポートのテーマを設定し、執筆開始 - 選択科目を中心に履修 - 中間報告会
	秋学期	- 中間報告会準備・発表 - 修士論文の提出 - 口頭試問、公聴会 - 修士号取得		- 研究レポートを提出 - 研究成果報告会
3年目	春学期	文学研究科 博士課程前期課程 2回生 高畠 爽さん → P.07	- 博士論文テーマの絞り込み - 研究会参加 - ゼミでの研究報告	
	秋学期	生命科学研究科 博士課程前期課程 2回生 金井 梨夏さん → P.08	- リサーチ資料の整理・分析 - 論文投稿	
4年目	春学期		- 資料収集・資料整理・分析 - 学会参加、発表 2本目の論文投稿テーマ設定	
	秋学期		- 資料分析 - 投稿論文執筆 - 博士論文執筆	
5年目	春学期		- 博士論文構想発表会 - 博士論文執筆 - 学会参加、発表	
	秋学期		- 博士論文提出 - 口頭試問、公聴会 - 博士号取得	

大学院生がどのように研究や就職活動を行っているかご存知ですか。各課程の例をご紹介します。

※以下は過ごし方の例であり、研究科や個人により異なります。

専門職学位課程 (教職研究科)	専門職学位課程 (法務研究科) [法学未修者の例]	4年制博士課程	一貫制博士課程
● 実習校・コースの決定 ● 教員採用試験の受験準備 ● 教職専門研修(実習)の実施(3週間) ● フィールドワークの実施 ※科目により実施時期は異なる	● 講義科目で徹底して各法の基礎を学ぶ ● 実務家教員による「法曹倫理」を受講 ● エクステンションセンター講座を受講(司法試験合格まで)	● 研究テーマの設定、課題絞り込み ● 研究計画書提出 ● 研究の具体化	● 研究課題の絞り込み ● 研究指導計画書提出 ● 論文作成基礎力養成 ● 調査、資料収集、文献研究等
● 教職専門研修報告会 ● コース科目の履修 ● 2年目の長期実習に向けた振り返りと計画作成		● 研究中間発表会	● 研究課題の具体化 ● 論文作成基礎力養成 ● 調査、資料収集、文献研究等
● 教職専門研修(実習)の実施(7週間) ● 教員採用試験の受験 ● 教職専門研修報告会	● 演習科目で応用力を身につける ● 基礎法学・隣接科目で視野を広げる ● 夏期短期海外プログラムなどで国際性を磨く	● 研究計画の進捗確認・見直し ● 研究計画書提出 ● 学会参加、発表	● 研究指導計画書提出 ● 紀要・学会誌等の論文執筆 ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 博士予備論文執筆
● 実習の振り返りと理論化を行い、「理論と実践の往還」による学びの成果を「教育実践探究論文」にまとめる		● 研究中間報告会 ● 投稿論文執筆	● 博士予備論文提出、口頭試問 ● 修士課程相当30単位を修得 ● 調査、資料収集、文献研究等 ※修士号取得退学可
	● 臨床科目で法実務の現場(法律相談)を体験 ● 選択科目を受講しながら将来の専門分野を検討 ● 司法試験に出願* * 在学中受験も可能です(所定科目を単位修得した場合)	● 研究計画の見直し、精緻化 ● 研究計画書提出	● 研究指導計画書提出 ● 学会参加、発表 ● 紀要・学会誌等の論文執筆 ● 調査、資料収集、文献研究等
		● 研究中間報告会 ● 学会参加、発表	● 学会参加、発表 ● 調査、資料収集、文献研究等
	CHECK! 法学未修者コース：3年 法学既修者コース：2年の2つのコースがあります。	● 研究計画書提出 ● 博士論文執筆	● 研究指導計画書提出 ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 学会参加、発表 ● 紀要・学会誌等の論文執筆
		● 博士論文提出 ● 口頭試問 ● 公聴会(一般公開) ● 博士号取得	● 調査、資料収集、文献研究等 ● 学会参加、発表 ● 博士論文執筆
			● 研究指導計画書提出 ● 博士論文構想発表会 ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 紀要・学会誌等の論文執筆
			● 調査、資料収集、文献研究等 ● 博士論文提出 ● 口頭試問、公聴会(一般公開) ● 博士号取得

現役院生からのアドバイス

文学研究科 人文学専攻 博士課程前期課程2回生

高島 爽さん

研究テーマ イギリスの小説家D.H.ロレンスの小説と教育

イギリスの小説家D.H.ロレンス(1885-1930)を題材に、「作家と教育」というテーマで研究しています。彼は『チャタレー夫人の恋人』(1928)などの作品で性を大胆に描写した作家として知られていますが、文筆活動に専念する以前は小学校教師として働いていました。当時、世界の最先端であったイギリスの教育について、彼が作中でどのように批判しているのか。その時代の文化的、社会的背景を考慮しながら分析しています。



大学院での過ごし方

大学院生の2年間

	春セメスター	秋セメスター
1回生	●入学、授業開始 ●研究計画立案 ●修士論文中間発表	●研究計画修正 ●授業 ●修士論文中間発表
2回生	●イギリス留学 ●学会発表 ●修士論文執筆	●修士論文執筆/提出 ●口頭試問 ●大学院修了

ある1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土/日
第1時限		授業	予習・課題	授業	授業	●家で読書をしたり、 外出して映画館や カフェ、古本屋へ 行ったりして自由に 過ごします。 ●平日に終わられな かった予習や課題 をすることもありま す。
第2時限	授業	予習・課題		予習・課題		
第3時限						
第4時限		授業		予習・課題		
第5時限	勉強会	アルバイト				
第6時限					アルバイト	
第7時限						

ある1日のスケジュール

7:00	起床
9:00	登校
10:30	授業
12:30	予習・課題
13:30	昼食
14:30	予習・課題
16:00	授業
16:30	帰宅
17:30	
	アルバイト
22:00	
	夕食など
24:00	就寝



大学院生の専用施設があり、授業の合間に集中して勉強することもできます。

■より高度な専門知識を持った教育者を目指して

私が大学院進学を選んだ理由は2つあります。1つは教員になることを目指し、大学院で所定の単位と修士の学位を得ることで「専修免許」を取得したかったからです。「専修免許」を取得すると、学部で教職課程で取れる「一種免許」よりも専門的な知識を身につけた上で指導にあたることができ、教員としてのステップアップにもつながります。そしてもう1つ、学部時代よりも深く英文学を学び、英語力を高めたいという気持ちもありました。

■英語で作品を読み解く力が向上

学部時代は日本語で書かれた文献を参照することが多かったですが、大学院では英語の文献を中心に読んでいます。翻訳とは細かなニュアンスが異なる場合もあり、作家の世界によりダイレクトに触れられる面白さがあります。慣れないうちは英文を追うだけで精一杯でしたが、今では時代背景や文化を理解しながら読み解く力や分析力も養われたと感じます。

■英語文学全般に関する広い視野を獲得

英米文学専修には、複数の先生方がオムニバス形式で講義する「特別研究」という授業があります。私は普段イギリスの小説を多く読んでいますが、その授業ではアメリカやアイルランドなど他の英語圏の小説や詩、演劇にも幅広く出会うことができました。自分の研究対象を深く掘り下げ一方、国や時代の違う作品を味わい、英語文学に関する多様な視点も得られたと思います。

■時間的余裕のある大学院で念願だった留学を実現

前期課程2回生の春には半年間休学し、イギリスのバースという都市に留学しました。学部時代は通常の授業に加えて教職課程も履修していたため時間的な余裕がありませんでしたが、大学院に進学して研究に費やす時間が増えたからこそ実現できたことです。研究対象とするD.H.ロレンスが描く風景を実際に見て体感し、現地の方たちと交流することで、作品への理解がより深まりました。また聞く・話すという英会話力が上がったことも自信になりました。



■将来について… どんな進路を考えていますか？

半年間休学しましたが、早期修了制度を利用して今年度の春に修了見込みです。修了後は公立の中学・高校の英語教員になる予定です。すでに教員採用試験には合格しています。大学院の授業や論文執筆の過程で培ったクリティカルシンキング(批判的思考)と英語の専門性を活かし、「生」の英語を伝える実践的な教員になることを目指しています。

大学院進学を検討する人へ

大学院は、その道のスペシャリストである先生方からより専門的できめ細かな指導を受けることができ、かつ自分の研究テーマを奥深く追究するために十分な時間と機会に恵まれている点が魅力です。実際に私は学部の4年間よりもさらに成長できたと実感しています。明確な将来像が定まっている人はもちろん、「何かをもっと深く探求したい」という漠然とした思いを持った人にも、大学院はきっと刺激的な場所になるはずです。

金井 梨夏さん

研究テーマ パセリ本葉で発現するタンパク質複合体の解析

植物が環境適応のために合成する代謝物質の一つに「アピニン」というフラボノイド配糖体(ポリフェノール的一种)があります。これはパセリやセロリなど特定の種で合成され、血圧低下や抗がんといった作用が報告されていることから医薬品への応用が期待されています。本研究では、アピニンの合成反応に関わる酵素が集まって複合体を形成することで反応を効率化していると予測し、パセリで発現する酵素複合体の仕組みの解析を行っています。



大学院での過ごし方

大学院生の2年間

	春セメスター	秋セメスター
1回生	●入学、授業開始 ●授業補助(TA) ●修士論文中間発表会	●授業 ●学会発表(国内学会) ●インターンシップ
2回生	●就職活動 ●学会発表(国内学会)	●授業補助(TA) ●修士論文執筆/提出 ●修士論文公聴会 ●大学院修了

ある1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土/日
第1時限	雑誌会 (論文紹介)				研究進歩 報告会	●英語学習(英会話) ●アルバイト
第2時限						●食えることが大好きで、休日はよく友人や家族とおいしいものを食べに行きます!
第3時限		研究	研究	研究	研究	●発表資料の作成やデータ整理を行うこともあります。
第4時限	研究					
第5時限						
第6時限						
第7時限		英会話				

ある1日のスケジュール

6:00	起床
	朝食
9:30	登校
	雑誌会 (論文紹介)
12:00	昼食
13:00	研究室で 実験・ データ整理
20:00	帰宅
21:00	夕食
22:00	自由時間
24:00	資料作成 (研究発表など)
	就寝



大学院では実験計画の立案からデータ整理まで自分で考えて行います。

■食品の研究開発職に就くための第一歩として

私は食えることが何より大好きなので、大学入学前から食品企業で開発の仕事がしたいと考えていました。入学当初は4年間で卒業するつもりでしたが、食品の研究開発職に採用されるほとんどの人が大学院出身であることを知り、3回生の時点で大学院進学を決めました。また立命館大学以外の大学院へ進学する選択肢もありましたが、「学部4回生から3年間、同じ環境・人間関係のなかで同じテーマを研究できる」ことに魅力を感じ、学内進学を選択しました。



■大学院は自分で考え行動することが大事

学部までの実験では教えてもらうことが多いですが、大学院では実験のスケジュールを立てるところから、実験の方法や失敗した原因もすべて自分で考えます。最初は戸惑いながらも、先生方から研究の進め方についてアドバイスをいただいて試行錯誤するうち、主体的に考えて行動できる力がついたと感じています。

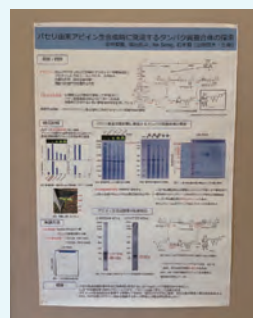
■プレゼン発表を多数経験し、人見知りを克服

私が所属する研究室では週1回、最新の論文を交代で紹介する「雑誌会」という発表の場があります。さらに半年に一度実施される研究室全体での報告会や、学会発表、外部との研究交流会など、大学院

ではプレゼン資料作成&発表の機会がとても豊富です。私はもともと人見知りのため人前で話すことが苦手でしたが、大学院に進学して発表の場に慣れたことでコミュニケーション力やプレゼンテーション能力を高められたと思います。

■キャリアセンターのサポート力も強い味方

就職活動については前期課程1回生の冬から本格的にスタートしました。エントリーシートの添削、書き方指導、面接の練習など、キャリアセンターへ何度も相談させてもらいました。立命館大学大学院には研究開発職の先輩もたくさんいるため、OB・OG訪問でリアルなお話が聞けたのも心強かったです。おかげで約2か月の就職活動で志望企業から内定をいただき、研究活動との両立もスムーズに実現できました。



■将来について… どんな進路を考えていますか?

憧れだった食品企業の研究開発職に内定が決まっており、新商品の開発やリニューアルなどに携わる予定です。大学院での研究活動と同じように現状分析・改善策を考え、健康とおいしさの両方を妥協しない食品を生み出したいと考えています。今はまだ消費者の立場ですが、いつか未来のヒット商品を開発できる人材になりたいです。

大学院進学を検討する人へ

大学院進学はより深い専門性を磨けるだけでなく、就職活動にも有利になります。実際に私が内定した食品企業の研究開発職は、内定者12人全員が大学院出身でした。エントリーシートや面接で研究活動や学会発表といった自己PRのエピソードが増えたことも良い結果につながったと思います。就職か大学院進学かを迷っている人、自分のしたいことが具体的に決まっていなくても、大学院の2年間は自己成長できる絶好の機会になるので、ぜひ前向きに検討してみてください。



法学研究科

2021年3月

博士課程前期課程修了

船見 菜々子さん

ダイキン工業(株) 勤務

文武両道の学部生から、法学の専門家になるべく大学院へ

大学院進学を考え始めたのは、学部生の頃に「社会に生きる法」という授業で企業法務の仕事をしている卒業生からお話を聞いたことがきっかけです。それから徐々に企業法務という仕事が目標になりましたが、学部生の間は剣道で関西大会優勝という目標も掲げており、これらの目標を両立し、法学を社会で活かすための専門性を身につけるためには、より学びを深める時間が必要であると感じました。こうして大学院進学を選択しました。

大学院時代に重視していたのは、座学だけでなく経験から学ぶことです。例えば、大学院のプログラムを利用し、企業法務のインターンシップに参加したり、米国のロースクールに短期留学したりしました。インターンシップでは実際に契約模擬交渉などを行い、企業法務の仕事について理解が深まるとともに、やはり企業法務を仕事にしたいという気持ちが高まりました。また短期留学ではロースクールでの講義にとどまらず、官庁訪問やフィールドワークを通じて、米国の在り方を肌で感じる経験をしました。大学院の一つ一つの授業やこうしたリアルな現場での学びが相乗効果をもたらし、大きな学びになったと感じます。

大学院で得た知識を社会でダイレクトに活かせるやりがい

大学院修了後はダイキン工業に就職し、法務グループで、契約審査、法務相談、投資案件などを担当しています。念願叶って企業法務の仕事に就いた今、大学院での学びが活かされていると感じることは多いです。知識はもちろんのこと、仕事に対する姿勢も大学院で培ったものが大きいです。大学院では学生が主体となって研究内容を報告・議論する形式の授業が多く、事前準備をしっかりと行った上で授業に臨んでいました。現在もこのような姿勢で仕事に取り組んでいるため、一つの仕事から学ぶことが多く、若手でも臆さずに意見を述べる事ができていますと感じます。

今振り返ると、学部の4年間は知識をインプットすること、大学院の2年間は自分で考えてアウトプットすることが中心の期間だったと思います。そして修士論文として「自動運転に関する損害賠償責任について」を執筆できたことは、6年間の学びの集大成となりました。何よりも大学院での2年間は、高い志を持った仲間たちと切磋琢磨しながら成長できる、人生のなかでも非常に価値のある時間でした。専門知識はもちろん、情報収集力や論理的思考力など、大学院で得たもので無駄なものは何一つありません。皆さんにもぜひこの素晴らしい経験をしてほしいと願っています。



理工学研究科

2023年3月

博士課程前期課程修了

平野 貴稔さん

みずほ第一フィナンシャル
テクノロジー(株) 勤務

数理ファイナンスをもっと深く研究するため大学院へ進学

中学生の頃から理系科目に興味があり、なんとなく「理系に進むなら大学院まで行くほうがいい」と考えていました。実際、学部時代は理工学部で数学を学んでいましたが、4年間では基礎勉強で終わってしまうと感じたため大学院進学を決意しました。

大学院で研究したのは、金融市場のランダムな振る舞いをする数理モデルを構成し、金融派生商品(オプションなど)の価格評価、リスク評価、最適投資方法や消費ルールの考察などを行う分野です。所属していた数理ファイナンス研究室では海外からゲストが訪れ、共同研究することもありました。研究室の先生がイタリア・フィレンツェ大学との提携関係を持っていたご縁で、私も前期課程2回生の10月～12月、フィレンツェ大学に滞在しながら、共同研究者の方に数値実験手法についてのレクチャーを受け、自身の研究に取り入れてきました。他に学会発表でドイツを訪れたこともあります。英語はあまり得意ではなかったのですが、海外でも研究活動を行うことで自然と英会話力やコミュニケーション力が身につきました。

専門知識のある大学院出身者は、挑戦できるチャンスが多い

現在はみずほ銀行からみずほ第一フィナンシャルテクノロジーに出向し、リスク管理技術開発部で主に親会社や金融法人へのリスク管理コンサルティングを行っています。

なかでも私が担当しているのは「信用リスク＝金融取引やポートフォリオの価値が企業の信用要因によって減価する可能性」についての情報収集・分析、数理的技術を用いた手法やモデルの提供です。大学院でも最先端の技術を短いスパンでキャッチアップし、調査して自分の研究テーマに落とし込むというプロセスを重ねてきたので、そうした進め方が今の業務に活かされていると思います。

また数理ファイナンスの専門知識を学んだバックグラウンドがあるからこそ、重要なプロジェクトにアサインしてもらえることを実感しています。そこで活躍できるかどうかは自分の頑張り次第ですが、大学院出身者は挑戦するチャンスをもたらされる機会が多いのではないのでしょうか。大学院時代に数理ファイナンスの世界で第一線を走るスペシャリストたちとの人脈ができたことも大きな財産になりました。皆さんにも将来の自分の可能性を広げるために、大学院進学を強くおすすめします。私は今後、実務とアカデミックの両立を目指し、博士号を取得したいと考えています。

Faculty voice



法学研究科
森久 智江 教授

社会の中の「犯罪という現象」を読み解き、「犯罪」に学ぶ

「犯罪」は社会においてこそ生じる現象です。私たちが人と人との間で生きていく中で、自分の内外において何らかの軋轢や葛藤が生じたとき、それが「犯罪」というかたちになって表れることがあります。しかし皆さんがよく知る刑事裁判の場で、そうした「犯罪」の背景や要因が全て明らかになることはほぼありません。それは同時に、刑罰が「犯罪」の全てを解決する訳ではないということでもあるのです。

犯罪学は、「犯罪」のそうした見えにくい社会的文脈を知り、社会がそこから何を学ぶべきであるのかを明らかにしながら、より「犯罪」に至りにくい社会を私たち自身がどのように築いていくのかを模索する学問です。犯罪学は、社会学、心理、福祉、教育等、様々な学問領域と共に研究を行っていますが、その際、人が社会の中で「生きる」権利に軸足を置いて思考する法学の考え方は不可欠なものです。

理論知と実践知、違う視点を有する人とかかわる研究と対話の重要性

私が研究を志す契機となった「Restorative Justice(RJ(修復的司法))」は、まさに「犯罪から学ぶ社会」を追求する犯罪学の考え方の一つです。RJはこの考え方の実践として、直接的な問題解決ではなく、問題を共有するための対話を重視します。大学院生時代の私は、国内外の多様な分野の研究者や、様々な現場で刑事司法や犯罪をした人等への支援に関与する実践家、実際の事件の当事者など対話する機会を多々得ました。文献を深く読み解くことももちろん大学院での重要な営みですが、自分ならではの考え方の核を明確にしていくうえで、異なる経験や専門性を有する人々との対話は、自分に無い視点を得たり、より困難な課題に取り組んだりするための貴重なプロセスとなりました。

大学院は学部と異なり、自分だけのテーマを定め、その追究の成果を論文というかたちに落とし込むことに集中するからこそ、そのテーマに関わる理論知と実践知を有する人々から丁寧に話を聴き、的確に自身の考え方を伝える力を養うことができる場です。それはキャリアに関わらず、私たちがその後を生きる力・社会を築く力に繋がるものなのです。



理工学研究科
荒木 努 教授

大学院の魅力は、「挑戦と成長」の継続

私の研究は「半導体」の開発です。半導体は今やもう空気のような存在で、これなくして私たちは生きていくことができません。SDGsに掲げられる世界の誰もが快適に安全に安心して持続的に暮らせる社会の実現には、これからも半導体が様々な分野で必要とされています。例えば、自動走行電気自動車の実現には、周囲情報を精度よく取得するセンサー、情報を認識・判断するAI、そして命令に従いモーターやハンドルを動かす制御装置などが必要で、どれも半導体がその役目を担っています。

自動車、スマートフォン、新型コロナワクチン等々、様々な技術開発が激しい競争の中で進められています。大学を卒業して、社会人として働くということは、その競争の中に身をおくということです。今、こうした競争社会では、高度な専門性を自身の柱に据え、世の中の急激な変化にも創造性豊かに対応できる人材が求められており、大学院がその高度人材育成を担っています。

大学院進学の魅力は、研究活動を通じて、「挑戦と成長」を続けられることです。研究に終わりはありません。目標に向かって計画を立て、実験を繰り返し、うまくいかなければ悩み、考え、行動し、怒られたり、褒められたり。大学院では、修羅場を何度もくぐり抜けることで、専門知識やスキルだけではなく、厳しい社会に出ても活躍できる一皮も二皮もむけた口バスト(頑強、堅牢)さも身につけられます。

大学院での学びは、その後の人生の礎となる

理系の大学院では、多くの学生(院生、卒研生)が研究室に集い、日々活動しています。苦楽をともにして切磋琢磨する同じ研究室の仲間や、学会活動・共同研究などで通じる学外・海外の研究者、同世代の若者達。研究は一人でできるものではありません。異分野横断、文理横断といった学際的な視野を広げ、大学院時代だけでなく、将来のキャリアにわたって心の糧となるような豊かなネットワーク形成の機会を積極的に取り入れています。

大学院(修士課程/博士課程前期課程)での2年は、人生100年と言われる今の時代において、ほんの短い時間です。しかしこの間に得られる経験は、社会に出てからの50年以上の人生を支える根っこになるものです。しっかりと根を生やした大樹として育つための時間をぜひ大学院で過ごしてください。

立命館のキャリアパス支援について

■奨学金・助成制度の概要

下記は本学独自の奨学金・助成制度であり、返還義務のない奨学金・助成制度です。内容は2023年度の概要であり、2024年度以降の制度に一部修正、統合などが発生する可能性があります。最新の情報については、大学院キャリアパス推進室ウェブサイト、各制度の募集要項等を参照してください。本ウェブサイトでは、各種セミナー・プログラムについても紹介しています。

※専門職学位課程は、一部対象とならない奨学金・助成制度がありますので、詳細は募集要項をご確認ください。



大学院キャリアパス
推進室ウェブサイト
(奨学金・研究助成)

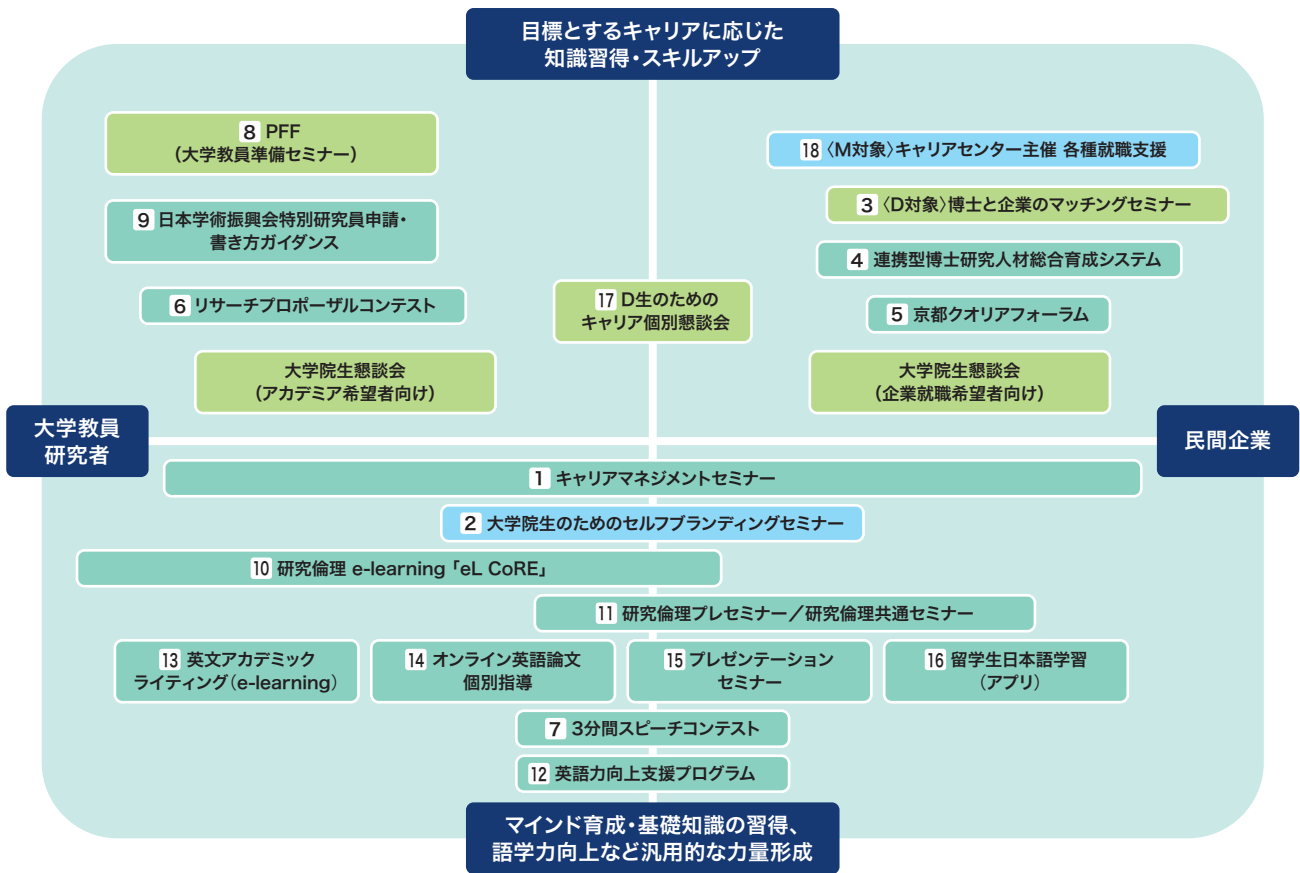
	M1	M2	D1	D2	D3 (4年制はD4含む)
成績優秀者の入学・学修・研究を奨励	1年次対象 成績優秀者奨学金 10 ～ 60万円 (研究科ごとに異なる)	2年次対象 成績優秀者奨学金 10 ～ 60万円 (研究科ごとに異なる)	研究奨励奨学金 S給付：年間の授業料相当額 A給付：年間の授業料相当額 B給付：年間の授業料の1/2相当額 NEXT学生フェロー 研究専念支援金：年間216万円(月額18万円) 研究費：年間 34万円 RARA学生フェロー 研究活動支援金：年間216万円(月額18万円) 研究費：年間 34万円		
研究活動したい	研究実践活動補助金 国内研究実践：1.5 ～ 3万円 国外研究実践：2 ～ 20万円		博士課程院生研究支援奨学金 10～50万円(申請区分に応じて給付)		
学会に参加したい 学会で研究成果を 発表したい	学生会奨学金 学会参加奨励(オンライン参加)：一律 5千円 学会参加奨励(現地参加)：一律 1万円 学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催)：一律 1.5万円 学会発表奨励(国内現地発表)：一律 3万円 学会発表奨励(国外現地発表)：一律 10万円				
研究科を越えて 研究会活動したい	学生研究会活動支援 経費支援（1研究会あたり年額 10 万円上限）・施設支援				
英語論文を 投稿したい 語学を学びたい TOEIC®・TOEFL® 等を受験したい	外国語論文投稿支援制度 論文校正費: 上限5万円 論文投稿費: 上限5万円 ベーススキル向上支援補助金 所定の講座の受講料の全額または一部 英語団体受験補助制度 学内で行うTOEFL ITP®テストとTOEIC®L&R IPテストの団体受験料を補助する制度				
海外留学したい	留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金 派遣期間中に派遣先に納付する学費または本学に納付する入学金を除く学費の1/2 相当額				
博士論文を 出版したい	(博士学位論文を出版する際に、 その経費の一部(最大100万円)を補助)			博士論文出版助成金 (人文社系の研究科のみ)	

※TOEIC®, TOEFL®はEducational Testing Service(ETS)の登録商標です。

※TOEIC®L&R IPテストの「L&R」は、Listening & Readingの短縮形です。

■キャリアパス支援プログラム

研究活動を通じて身につけた知識や能力を多様な分野で活かせるよう、キャリアパス形成に必要な基礎知識やスキルの習得、研究科を越えたネットワーク構築のための多様な企画を実施しています。今回は、その一部を紹介します。(2023年度の例です。2024年度以降は変更する場合もあります)



1 カリアマネジメントセミナー

大学や企業の第一線で活躍されている方々をお招きして実施する「キャリア創造のための“実践力強化”を図る」セミナーです。企業をどのように選ぶのか、リーダーシップはなぜ必要か、未知なる課題にどのように立ち向かうか、といったテーマから、エントリーシートの書き方など実践的な内容まで、多岐に富んでいます。社会が求めるトランスファブルスキルを身につけることができます。

[2023年度実施プログラム]

	開催日	テーマ(内容)
第1回	5/12	だれもが必要リーダーシップ
第2回	5/19	折れない心の作り方
第3回	5/22	アカデミックキャリアの見つけ方
第4回	5/31	企業の種類と分析
第5回	6/9	知的財産ってなあに？
第6回	6/16	未来を生き抜くために必要なこと
第7回	6/23	大学院生のためのキラッと輝くエントリーシート

2 大学院生のためのセルフブランディングセミナー

主に博士課程前期課程1回生を対象に、自分自身を見つめ、大学院で何を学ぶのか、自分自身をいかにブランディングするのかについて考えるセミナーです。セミナーを通して、他者との違いを感じながら、自分の幸せ、大切にしたいことを探し、自分自身の魅力を高めていきます。

3 博士と企業のマッチングセミナー

主に、企業への就職をめざす博士課程後期課程大学院生を対象に、学生と企業が直接交流の中で、就職への道筋をつけることを目的としたセミナーです。企業がどのように博士を採用しているのか、就職後の働き方など、企業の方から直接お話を聞くことができます。

4 連携型博士研究人材総合育成システム (通称:博士人材育成コンソーシアム)

北海道大学を代表機関として、東北大学、名古屋大学とともに平成26(2014)年度にスタートした事業で、本学も2019年度より参加しています(現在13大学が加盟)。このシステムは、企業を知るためのセミナーや企業等との密接なマッチングシステム、データベースなどを通じて、民間企業や研究機関等、アカデミア以外で博士人材が活躍できる場を見出すことを目的としています。大学ごとに特徴あるプログラムが用意されており、文系・理系を問わず、本学の大学院生が参加できるイベントも数多くあります。

6 リサーチプロポーザルコンテスト

自身の研究のアイデアを、いかに魅力的に研究計画書上で表現できるかを競うコンテストです。日本学術振興会特別研究員に申請する前のトレーニングとしても位置付けています。

8 PFF(大学教員準備セミナー)

大学教員として講義を行うにあたって必要となる基本的なスキルを習得するプログラムです。

9 日本学術振興会特別研究員申請・書き方ガイダンス

日本学術振興会特別研究員の制度概要や募集スケジュール、申請書作成のポイントについて学びます。

11 研究倫理プレセミナー／研究倫理共通セミナー

研究を進めるにあたって知っておかなければならない研究倫理に関する基礎知識の習得を目指します。

12 英語力向上支援プログラム

英語のオンライン学習ツールの無償提供や個別学習支援、TOEIC® L&R公式試験受験料補助制度、オンライン英語論文個別指導があります。

■プロジェクト・ゼミナール

SDGs課題の中から、グループで1つの課題を選択し、その解決策を検討するPBL(課題解決型学習)を行います。PBLを通じて、議論の進め方を学ぶとともに、主体性、チームワーク力、リーダーシップ、課題設定・解決力等を育成します。また、解決策は高校生に発表し、投票してもらいます。いかに高校生にわかりやすく発表ができるか、プレゼンテーション能力も磨くことができます。

さらに、異なる研究科の学生が力をあわせることや後期課程学生が持つ専門性から学ぶことも多く、お互いを高め合うことができます。

■イノベーション・ゼミナール

企業から課題をもらい、グループでその解決策を検討し、提案するゼミナールです。企業は何に重きを置いて商品開発を行っているのか。実社会で必要なイノベーションの意味を知り、それをいかに活用すればいいのか、実践的に学びます。

大学院生の進路・就職

大学院修了後のキャリアは、大学教員をはじめとする研究者だけでなく、民間企業を中心に様々な業界へと広がっています。

CHECK IT

◇大学院修了生の進路実現に向けて

本学では、大学院生の皆さんの希望する進路・就職の実現に向けた総合的な支援を行っています。研究活動と修了後の進路を並行して考えるためのガイダンスでは、就職活動の流れや、企業が大学院生に期待することをはじめ、キャリアセンターの支援内容などをお伝えします。

また、インターンシップや就職活動に向けた自己理解系・企業理解系の各種選考対策も行っています。他にも、留学生や、公務員を目指す方に向けた支援企画も実施しています。

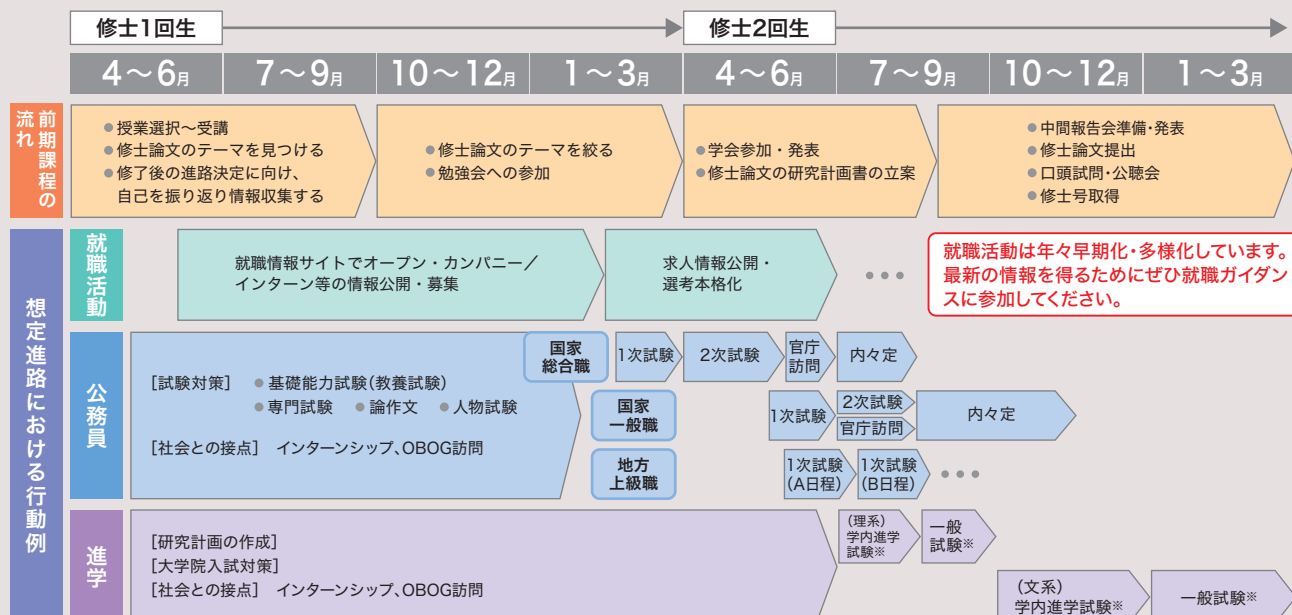
■大学院生就職決定率 **95.4%** (2023年度 修士・博士課程前期課程修了者実績)

文系	88.9%	理系	98.0%	テクノロジー・マネジメント研究科 (文理融合)	97.4%
----	-------	----	-------	----------------------------	-------

◇進路に応じた支援を受けることができます ※下記は2024年度の内容です。

個別相談 (キャリアセンター)	PFF (大学教員準備セミナー)	公務員、資格取得	博士と企業の マッチングセミナー
修士・博士課程前期課程大学院生のうち、主に民間就職や公務員志望の方に向けて、就職活動や公務員試験に関する様々な相談に応じています。	大学で授業を行うにあたって必要となる基礎的なスキルを習得するプログラムです。教育開発推進機構の実践的FDプログラムと連携して実施します。	エクステンションセンターでは、公務員試験や資格取得に向けた各種講座の開講、学習支援のほか、イベント等も実施しています。 ※キャリアセンター内にあります。	博士課程後期課程大学院生と企業が直接交流する中で、就職への道筋をつけることを目的としたセミナー。自身の研究力や持てる力をアピールするチャンスです。

◇修士・博士課程前期課程における進路別スケジュール(例)



※入試時期は、研究科によって異なります

修了生の主な就職先

法学研究科

国内外の大学教員、民間企業や金融機関の法務部や財務部、公務員、司法書士・税理士・公認会計士・弁理士など、法学・政治学に関する高度な専門知識を必須とする職業分野において活躍しています。

進路・就職先/研究職：私立大学・国公立大学、海外大学など 民間：メーカー、金融機関の法務部門や税理士法人など 公務員：国家公務員、国税専門官、法務省専門職員、地方公務員など

社会学研究科

社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者や高度専門職業人として幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/社会福祉協議会・地方公務員・教員など 民間：マスコミ・サービス・流通・商事など 研究職：私立大学・国公立大学など

国際関係研究科

企業の総合職（主に国際部門）、マスコミ各社（新聞、放送、出版）、シンクタンク、国際機関職員、各国政府系機関へ修了者を輩出しています。

進路・就職先/国家公務員・国際協力機構・日本貿易振興機構など 民間：サービス・製造・マスコミなど 研究職：私立大学・国公立大学など

文学研究科

中学・高等学校教員、高度専門職職員、公務員、民間企業社員など、各専修の独自性を活かしたさまざまな職に就き活躍しています。

進路・就職先/教員・国家公務員・地方公務員など 民間：サービス・流通・商事・マスコミなど 研究職：私立大学・国公立大学など

言語教育情報研究科

言語に関わる専門的知識を活かして、教育関連を中心に幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/国内外の大学教員、中等教育機関の英語教員、日本語教員など。国際交流基金、国際協力機構などの団体。サービス・製造・流通等の民間企業など。

先端総合学術研究科

研究者養成の研究科。博士号を取得、研究者として、あるいは現役研究者がさらにキャリアアップし、様々なフィールドで活躍しています。

進路・就職先/研究職：大学教員（テニユア教員、任期制教員）、大学・研究機関の研究員、各種学校教員、公務員・団体職員など

経済学研究科

大学教員等の研究者の道を目指す大学院生のほか、企業や公務員、税理士事務所などに就職する大学院生も増えています。

進路・就職先/地方公務員など 民間：税理士法人・金融・サービスなど

スポーツ健康科学研究科

「スポーツ」と「健康」に関する高度な専門性を活かして、幅広いフィールドで活躍しています。

進路・就職先/国立の研究機関、スポーツ用品、食品メーカー、教員など
進路・就職実績は28ページに記載しています。

食マネジメント研究科

食に関する高度な専門知識と幅広い見識を活かし、食関連ビジネスの変革、国・地域の食を通じた活性化の担い手として、幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/食関連のサービス・流通・製造、国家公務員など

理工学研究科

高度な専門知識・技術を活かして、多くの修了生が「研究・設計・開発職」に従事しています。

進路・就職先/民間：製造・サービス・流通・商事など
進路・就職実績は30ページに記載しています。

生命科学研究科

化学、エネルギー、環境、食料、情報、医療、健康分野といった幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/民間：製造・IT・情報処理・サービスなど
進路・就職実績は31ページに記載しています。

薬学研究科

高度な知識や技能を活かして医療現場や創薬・製薬分野、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を養成しています。

進路・就職先/製薬・化学・食品メーカー、病院、大学教員など

経営学研究科

大学教員・シンクタンクなどの研究者や、公認会計士、コンサルティング企業等の総合職など、幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/民間：監査法人・税理士法人・サービス・流通・商事・製造など 研究職：私立大学、国公立大学、海外大学、民間研究所など

政策科学研究科

行政や研究機関をはじめ、幅広い領域の専門性を活かし、多様な分野で活躍しています。

進路・就職先/国家公務員・地方公務員・教員 民間：サービス・金融
研究職：私立大学・国公立大学、海外大学など

人間科学研究科

各領域のスペシャリストを養成しています。

進路・就職先/臨床心理学領域：臨床心理士、産業・スクールカウンセラーなど 心理学領域：司法、警察官、教育など
実践人間科学領域：看護師、保健師、高齢者介護、障がい者援助など

映像研究科

映像に関わる高い専門性を修得し、広い視野から自らの課題を捉え、多様化する映像関連分野に柔軟に取り組んでいくことの出来る力を身につけます。

進路・就職先/民間：マスコミ、サービスなど
進路・就職先詳細は36ページに記載しています。

情報理工学研究科

社会を支えるIT技術・サービスを開発する役割が期待されており、幅広い業種で技術専門職や研究開発職として高度な人材が求められています。

進路・就職先/IT関連企業をはじめ、情報通信、Webサービス、総合電機、電子機器、自動車関連、医療機器、流通、金融、ゲーム、公務など

テクノロジー・マネジメント研究科

サービス・製造ほか職種を問わず、新規事業の立ち上げ、新技術の創造、技術を利用した収益向上など企業の持続的発展に欠かせない分野で活躍しています。

進路・就職先/新製品・サービス企画、工程管理、技術営業、一般営業コンサルティングなど

経営管理研究科

キャリアアップを目指す社会人、実践的知識を身に付けることでキャリアの開拓を目指す新卒者など、修了後は多様な分野でビジネスを創造するリーダーとして活躍しています。

進路・就職先/製造、コンサルティング、サービス、金融など
進路・就職先詳細は39ページに記載しています。

法務研究科

司法試験合格を経て法曹（弁護士・裁判官・検察官）を目指します。それ以外に民間企業（法務部門）や公務員でも活躍の場があります。

進路・就職先/弁護士・裁判官・検察官・民間企業（法務部門）・裁判所事務官・国家公務員・地方公務員

教職研究科

学校現場の多様な課題に高度な実践力で対応できる資質能力を獲得し、公立、私立の学校で教員として活躍しています。

進路・就職先/小学校・中学校・高等学校教員

若手研究者育成の取り組み

立命館大学では、研究力向上のための研究高度化計画において、大学院生についても「若手研究者」として位置づけ、それぞれのキャリアステージに応じた多様な支援と基盤的な研究支援の充実に力を入れています。

現在、21の研究科に約3,900名の大学院生が在籍しており、深い専門性と社会実装能力を備えた高度専門人材として活躍できるよう日々の研究に取り組んでいます。

以下に特徴的な取り組みを紹介します。

■「立命館大学NEXT(New Educational Xross-Training)フェローシップ・プログラム」、 「RARA(Ritsumeikan Advanced Research Academy/立命館先進研究アカデミー) 次世代研究者育成プログラム」

優秀で意欲のある博士課程後期課程の大学院生に対して、研究費および研究活動支援金(生活費相当額)を支給し、学際的で先進的な研究に専念できる環境を提供しています。現在、90名の院生が「NEXT学生フェロー」「RARA学生フェロー」として選拔され、将来のアカデミアを担う若手研究者あるいは企業で活躍する高度専門人材としての力量形成に取り組んでいます。



■ 大学院キャリアパス推進室の支援事業

「立命館大学 大学院キャリアパス推進室」では、大学院生に特化したキャリアパス形成支援を行っています。各種奨学金制度といった基盤的支援に加え、「トランスファラブルスキル」の養成を目的としたセミナーを実施するなど今日的課題にも対応した支援を行い、幅広くかつ丁寧な支援を展開しています。



セミナーで修得できるスキルの一例



YouTubeでも配信しています

■ 研究のアウトリーチ活動

本学の大学院生は、「研究のアウトリーチ活動」のさまざまな機会を通じて、幅広く社会に対して、自身の研究内容をわかりやすく魅力的に発信するスキルを磨いています。



ライスパールセミナー/
附属校・提携校生対象の研究セミナー



100人論文at立命館大学/
研究内容をWEB上で一般公開しコメントを募集



研究発表会の様子

■ Ri-SEARCH(立命館大学若手研究者 学術・キャリア情報検索システム)

大学院生は自身の研究業績を専用のデータベースに登録しています。
研究業績については以下のURLから検索可能なので、ぜひご参照ください。

検索サイトURL<<https://gyoseki.ritsumei.ac.jp/ritgshp/KgApp/>>



研究機構・研究所・研究センター

立命館大学では、研究機構による最先端の取り組みが展開されています。
その成果は社会貢献のために活用されるとともに、大学院の研究・教育に還元され、高度な研究につながっています。
人文・社会・自然科学各領域の研究を推進するために多彩な研究機構を設置し、
基礎から応用まで幅広い活動を展開しています。
また、国や地方公共団体、産業界との研究交流にも積極的に取り組み、成果を社会に還元しています。
※以下は、2024年3月1日現在の研究機構・研究所・研究センター

■ 立命館グローバル・イノベーション研究機構[R-GIRO]

R-GIROは、学長直轄の研究組織で、「政策的重点課題に特化した研究拠点の形成」および「次世代を担う若手研究者の育成の強化」を目的に2008年に設立されました。自然共生型社会の実現に向け、自然科学分野と人文・社会科学分野との融合を図り、学際的な研究活動を促進することで、価値ある研究成果を創出し、その成果の積極的発信により、次世代社会への貢献を果たすことを目的としています。

■ 立命館アジア・日本研究機構

立命館アジア・日本研究機構は学長直轄の研究組織で、『アジア・日本研究』をリードする研究者の育成および未来のアジア・日本についての共通ビジョンの形成をミッションとし、「アジアの時代」に資する立命館らしいコンセプトと戦略性を兼ね備えた研究を推進しています。国内外の研究機関と連携し、多様な研究ネットワークの中核としての機能を発揮しながらグローバルな視点でのアジア・日本研究を推進していくことを目的としています。直下のアジア・日本研究所では、「共生」「共創」「協働」をキーワードとした総合的な実践研究に取り組み、次世代研究者の育成に力を入れながら研究活動と成果発信を進めています。

■ アジア・日本研究所

■ 衣笠総合研究機構

衣笠総合研究機構は1998年に設置され、各研究所・研究センターをマネジメントする研究機構として研究活動を支援しています。「自主」「民主」「公開」「平和利用」といった4つの原則のもと、人類の福祉と社会の進歩に貢献し、社会の要請に応えることを目的としています。

■ 人文科学研究所 ■ 国際地域研究所 ■ 国際言語文化研究所
■ 人間科学研究所 ■ アート・リサーチセンター ■ 歴史都市防災研究所
■ 白川静記念東洋文字文化研究所 ■ 生存学研究所
■ 研究センター 加藤周一現代思想研究センター／地域健康社会学研究センター／
コリア研究センター／クリエイティブ・メディア研究センター／中東・イスラーム研究センター／
東アジア平和協力研究センター／間文化現象学研究センター／ゲーム研究センター／
法政基盤研究センター／環太平洋文明研究センター

■ BKC 社系研究機構

BKC社系研究機構は1998年、人文社会科学分野における企業・自治体等との共同研究を推進すること、自然科学系分野との交流による学際的な研究を促進することを目指し設置されました。社会性、国際性、公開性、学際性を重視した活動を行うことで、学術文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的としています。

■ 社会システム研究所
■ 研究センター ファイナンス研究センター／食総合研究センター

■ 総合科学技術研究機構

総合科学技術研究機構は、科学技術の発展と地域社会に貢献するために1994年に「総合理工学研究機構」として設置されました（2012年度より、現名称に改称）。産学官の共同研究の推進を通して、科学技術の発展と地域社会に貢献することを目的としています。

■ 理工学研究所 ■ SRセンター ■ VLSIセンター
■ スポーツ健康科学総合研究所
■ 研究センター 古気候学研究センター／先端材料研究センター／
ロボティクス研究センター／システム視覚科学研究センター／生物資源研究センター／
環境テクノロジー・マネジメント研究センター／先端ICTメディカル・ヘルスケア研究センター／
防災フロンティア研究センター／知能化社会デザイン研究センター／
バイオメディカルエンジニアリング研究センター／琵琶湖・環境イノベーション研究センター／
IoTセキュリティ研究センター／創薬科学研究センター／宇宙地球探査研究センター

■ OIC 総合研究機構

大阪いばらきキャンパス(OIC)の教学コンセプト「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」をふまえ、グローバルに通用する人材の育成、新たなイノベーションの創出、地域コミュニティの中核的存在としてその機能を果たす研究機構を目指し、活動することを目的としています。

■ 地域情報研究所
■ 研究センター デザイン科学研究センター／グローバルMOT研究センター／
稲盛経営哲学研究センター／サステナビリティ学研究所／
認知科学研究センター／医療介護経営研究センター／ものづくり質的研究センター／
日本バイオ炭研究センター

topics

研究活動報 RADIANT

<https://www.ritsumeit.ac.jp/research/radiant/>



立命館大学における研究活動を広く紹介しています。



X

立命館大学研究部 | @Rits_ResearchPR



立命館大学研究部公式Xアカウント。立命館の「研究」をもっと身近に感じてもらえるよう、多様な研究者の研究活動やイベントを紹介しています。

国際交流・留学生サポート

■外国人留学生(大学院)国・地域別一覧

国・地域	人数	国・地域	人数	国・地域	人数
アジア		南北アメリカ		中東	
1:中国	811	1:アメリカ	15	1:アフガニスタン	11
2:インドネシア	33	2:メキシコ	2	2:トルコ	3
3:ベトナム	20	3:グアテマラ	1	3:イスラエル	2
4:韓国	19	4:コロンビア	1	4:パレーン	1
5:台湾	19	5:ペルー	1	小計(中東)	17
6:インド	14	6:ベリーズ	1	1:キルギス	12
7:タイ	11	7:ホンジュラス	1	2:タジキスタン	8
8:香港	8	小計(南北アメリカ)	22	3:ウズベキスタン	7
9:ラオス	8	アフリカ		4:イタリア	4
10:カンボジア	7	1:ガーナ	4	5:ノルウェー	3
11:バングラデシュ	7	2:ナイジェリア	4	6:イギリス	2
12:ネパール	4	3:エジプト	3	7:スペイン	2
13:パキスタン	4	4:アルジェリア	1	8:ブルガリア	2
14:フィリピン	4	5:ウガンダ	1	9:ロシア	2
15:ブータン	4	6:エチオピア	1	10:アルバニア	1
16:スリランカ	3	7:コートジボワール	1	11:オランダ	1
17:ミャンマー	3	8:ジンバブエ	1	12:スウェーデン	1
18:モルディブ	3	9:セネガル	1	13:スロベニア	1
19:モンゴル	3	10:マダガスカル	1	14:ドイツ	1
20:シンガポール	1	11:南アフリカ	1	15:ハンガリー	1
21:マレーシア	1	12:モザンビーク	1	16:フランス	1
小計(アジア)	987	13:ルワンダ	1	17:ポーランド	1
		14:レソト	1	小計(ヨーロッパ)	50
		小計(アフリカ)	22	合計	1,098

(2023年5月1日現在、単位:名)
※在留資格「留学」を取得または取得見込みの学生を計上。

大学院在籍者のうち、
外国人留学生の割合

28.4%
1,098名

外国人留学生
受入数の多い大学

**全国
第3位※**

※2022(令和4)年度外国人留学生在籍状況調査結果
[独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)]

■世界各国の大学院生と学ぶ

63の 国・地域から集まる留学生

立命館大学の特徴は「多様性」という言葉に集約されます。立命館大学には世界の多様な国・地域から大学院生が集まり、日々勉学や研究に励んでいます。異なる文化や価値観の人と共に学び、グローバル人材に必要な素養をさらに磨くことのできる環境があります。

■DMDP(共同修士学位プログラム)

共同修士学位プログラム(DMDP:Dual Master's Degree Program)とは、立命館大学大学院に所属しながら提携する海外の大学院に1年間留学することにより、最短2年間で国を越えた2つの大学院の修士号を同時に取得できる制度です。グローバル化する国際社会で活躍する人材を育てる仕組みを持った画期的なプログラムです。

派遣プログラム実施研究科

国際関係研究科

社会学研究科

文学研究科

※対象研究科は変わることがあります。



■Beyond Borders Plaza (BBP)

2018年4月、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスにBeyond Borders Plaza (BBP)を開設しました。BBPは、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、様々なBorderを超えてつながりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。様々な言語学習用図書や、国際教養図書、雑誌などを通じて、楽しみながらグローバルな素養を高めたり、様々な国際交流イベントにも参加することができます。

BBPでは何ができるの？

リーディングスペース

言語学習(外国語・日本語)用の図書、海外留学に関する資料や書籍、語学検定試験の対策本、国際教養図書のほか、旅行本・カルチャー本を置いています。一人でゆっくりと見たり、グループで学習することができます。

学習サポートデスク

海外留学に関する相談や、外国語学習に関する相談に、専門教員が個別サポートします。自分一人ではなかなか解決できない悩みや、困ったことがあれば気軽に相談できます。

BBPウェブサイト



留学プログラム

BBPで得た発見や学びをもとに大学を飛び出してチャレンジしてみましょう！
BBPでは、海外留学に関する説明会やイベントを開催しています。

収集
する

体感
する

発信
する

実践
する

外国語コミュニケーションルーム

外国語の先生との日常会話や、ディスカッション・ゲームなどを通じて楽しく外国語に触れ、学ぶ場所です。空き時間を見つけて自由に参加できます。

SUP! Language Exchange Program

「学びたい言語」と「教えることができる言語」を登録し、お互いのニーズがマッチすれば、1対1で相互学習ができます。学生間でリラックスした中で学び合えるプログラムです。

ワークショップ・イベント

BBPでは、テーマ別のワークショップや国際交流イベントなどを通年で開催しています。自分たちでイベントを企画し実施することもできます。

留学生サポート

■ 授業料減免制度

- 本学独自の減免制度です。
- 現行の立命館大学私費外国人留学生授業料減免制度は2025年度で終了いたします。
なお2026年度以降は未定です。最新の情報や詳細は本学ウェブサイト、募集要項等を参照してください。

対象: 外国人留学生

種別	減免率	減免期間	対象者
外国人留学生授業料減免 (院生I種)	授業料の 100%	標準修業 年限※1	在留資格が「留学」かつ私費 外国人留学生であること。対 象者は入学試験にて決定
外国人留学生授業料減免 (院生II種)	授業料の 20%	1年間※2	在留資格が「留学」かつ正規 課程の私費外国人留学生で ある場合は 全員対象 。各自で 入学後に申請が必要

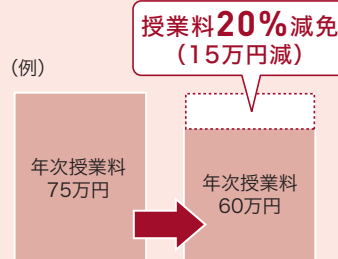
※1 一貫制博士課程の1年次入学については4学期間、3年次入学については6学期間を上限とします。

※2 毎年の申請により、標準修業年限を上限として減免を受けることができます(全員対象)。

日本留学AWARDS

— 日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勤めたい進学先 —

私立大学文科系部門と
私立大学理工系部門でダブル入賞!



■ 留学生支援コーディネーター

国際教育センターに常駐し、留学生からの学生生活の様々な相談に対応します。

留学生支援コーディネーターは、まず留学生の相談内容を把握し、必要に応じて学内外の適切な機関と連携していきます。

- 【相談事例】
- ・授業がわからない、単位がとれない【**正課に関わること**】
 - ・慣れない日本での生活に困りごとがある
 - ・友達ができない、人間関係がうまくいかない、体調が優れない、時間管理がうまくいかないなど【**人間関係、生活や健康に関わること**】
 - ・課外活動に参加したい、課外活動やアルバイトとの両立について【**課外に関わること**】
 - ・事件や事故、トラブルについて【**緊急性のあること**】
 - ・不安や悩みを誰に相談したらよいかわからないなど

■ 進路・就職

日本では大学院在学中に修了後の進路を決めることが一般的です。外国人留学生の皆さんが、修了後、日本の企業で働くことを視野に入れている場合、在留資格「留学」は修了日に失効するため、在学中に就職活動をする必要があります。日本の就職活動システムは独特で、日本の企業に就職した先輩たちは、在学中の早くから大学が提供している進路・就職支援企画を有意義に活用しています。キャリアセンターでは、日本での就職を希望する留学生のために充実したサポートを提供していますので、安心して進路選択や就職活動に取り組むことができます。

●立命館大学キャリアセンターの留学生向け支援

日本での就職を希望する留学生の方を対象に就職ガイダンスや学内での企業説明会・選考会、留学生の先輩による就職相談会、エントリーシートの書き方講座等、年間を通じて様々な企画を実施しています。各種支援はオンラインを中心に開催しています。

詳細は
こちら ▶ 立命館大学キャリアセンターウェブサイト
<https://www.ritsumei.ac.jp/career/>

・留学生担当スタッフへの相談

各キャンパスのキャリアセンターには留学生担当のスタッフがあり、予約制で相談を受け付けています。

●日本企業就職先例

(株)クボタ、(株)日立製作所、PwCコンサルティング合同会社、アクセシチュア(株)、スズキ(株)、ソフトバンク(株)、三菱電機(株)、日産自動車(株)、日本電気硝子(株)、富士通(株)



「日本就職を希望する留学生のためのES作成講座」

■ よくある質問

Q. 日本語または英語の力はどのくらい必要ですか

A. 希望する研究科、入学試験方式によって異なりますが、希望する指導言語で大学院の授業を理解できる程度の力は必要です。詳しい条件は、各研究科の入学試験要項で確認できます。また、日本での就職を希望する場合は、JLPT・N1(ビジネスレベルの日本語)を求められることが多いです。

Q. 日本での受験が必ず必要ですか?

A. 研究科や入学試験方式によっては、書類選考のみで可否を決定するなど、試験のための来日が必要ない場合があります。詳しい選考方法は各研究科の入学試験要項で確認できます。

社会人のみなさんへ

立命館大学大学院では、学位取得、仕事に直結する専門知識の習得、生涯学習など、様々な目的をもった多くの社会人学生がともに学び、研究されています。

ご紹介している制度の詳細については研究科により異なりますので、詳細は各研究科へお問合せください。

■ 社会人入学試験

以下の研究科では、社会人を対象に募集をおこなう**社会人入学試験**を実施しています。

実施研究科

法学	社会学	文学
言語教育情報	先端総合学術	経済学
スポーツ健康科学	食マネジメント	理工学
生命科学	薬学	政策科学
人間科学	情報理工学	テクノロジー・マネジメント
経営管理	教職	

※課程や年度により、実施しないことがあります。詳細は各研究科の入学試験要項を確認してください。

※上記以外の研究科でも、一般入学試験等で社会人の受験が可能です。

■ 長期履修制度

在学中に職業を有することにより、学修・研究時間を十分に取ることが出来ず標準修業年限で修了することが困難な場合、標準修業年限を超え、在学年限(4年)の範囲内の期間において計画的に教育課程を履修することを目的とした制度です。

博士課程前期課程・修士課程・専門職学位課程に入学する方を対象に、入学試験の出願時※に申請を受け付けています。

※教職研究科を除く

実施研究科

文学	言語教育情報	経済学
スポーツ健康科学	食マネジメント	政策科学
人間科学	経営管理	教職

科目等履修生制度

大学院に入学せずに授業を履修し、所定の要件を満たすと単位を修得できる制度です。修得した単位は、本学大学院の正規課程へ入学した場合に、入学後の単位として認定することがあります(認定する単位数には上限あり)。

子育てと大学院生活の両立をサポートする保育園

立命館みらい保育園WEBサイト
<https://www.ritsumeai.ac.jp/rnrnursery/>



2018年9月に衣笠キャンパスおよびびわこ・くさつキャンパスに開園しました。

保護者のうちどちらかが立命館大学の大学院生であれば利用を申請することが可能で、研究・就学と育児の両立を頑張る保護者の方をサポートしています。

大学暦にあわせての土日祝開講日の開園や、通常保育は午後7時まで(延長保育は午後8時まで)など利用時間も幅広く、授業や研究に多忙な大学院生でも利用しやすい環境を整えています。

★常時保育のほか、学業・研究に専念したい時間帯にお預かりする一時保育も実施しています。

立命館みらい保育園さぬがさ
(委託先: 社会福祉法人京都保育センター)



立命館みらい保育園びわこ
(委託先: 株式会社ボビンスエデュア)



サテライトキャンパス (大阪梅田キャンパス)

大阪梅田キャンパスWEBサイト
<https://www.ritsumeai.ac.jp/osakaumedacampus/>



アクセス至便な立地で、多数の社会人が受講しています。

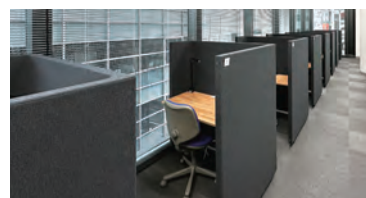
開講研究科

経営管理研究科[ビジネススクール]

テクノロジー・マネジメント研究科

言語教育情報研究科

PCとプロジェクトを常設した教室やプロジェクトルームなど、多目的に利用できる最新設備が整っています。キャレデスクを配置した自習室も備えています。



社会人院生インタビュー(経営管理研究科/ビジネススクール)



田岡 知夏さん

2014年 A社へ入社、商品開発部へ配属
2016年 マーケティング部門へ異動
2018年 立命館大学RBS入学
2020年 立命館大学RBS修了
2020年 サンスター株式会社へ転職、マーケティング部
でプロモーション業務に従事

田岡さんの時間割(イメージ)

※経営管理研究科は2時限連続授業を実施

平日夜間	6・7時限
土曜日・日曜日	1・2時限／3・4時限／5・6時限

■授業時間

平日(月～金)	6・7時限	18:30～21:30
土曜日・日曜日	1・2時限	9:10～12:10
	3・4時限	13:20～16:20
	5・6時限	16:50～19:50

■田岡さんの履修例(1年目～2年目前半期まで)

	月	火	水	木	金	土	日
午前						授業	
午後		授業				授業	

- 平日1つ／土日2つ、週に3つを基本に受講。
- 2年目の下半期は、ゼミで課題研究に集中。
- 授業時間等は、在学当時(2018-2019年度)のもの。

RBS(立命館大学ビジネススクール)進学のきっかけは？

工学部を卒業後、新卒で入社した企業では商品開発部に配属され、設計業務を行っていましたが、2年ほど経てようやく慣れてきたころに、想定もしていなかったマーケティング部門へ異動になりました。そこでの仕事は、市場調査や広告・販売促進など、専門的な業務内容が多く、日々悪戦苦闘していましたが、そんな中で少しでも必要な知識を得られたらよいと考えRBSセミナーに申し込んだことが、RBSに関わったきっかけでした。梅田にキャンパスがあり、平日の仕事のあとでも無理なく通えると思いました。セミナーに参加してみると、内容はもちろん、企業内だけでは出会えない多様なメンバーとの交流もとても面白く、「この環境でもっと勉強したい」と科目等履修もスタート。履修を重ねるうち、大学院進学が自然と視野に入ってきました。

どのように仕事と大学院を両立しましたか？

科目等履修で先行して単位を修得していたため、授業は平日夜間に1回+土曜と日曜いずれかに固めて2回の、週3回ほどを目標に履修していきました。平日は週1回だけなので、仕事の調整もつけやすかったです。どうしても授業を欠席せざるを得ない時もありましたが、そんな時は一緒に学ぶRBS生が授業の内容をフォローしてくれました。業種も職種も年齢もバラバラなメンバーでしたが、仕事と両立して修了できたのは自分一人の力ではなく、ともに頑張るRBS生の協力があったからだと思っています。経済的な側面では、厚生労働省の教育訓練給付を活用して補いました。

RBSを修了した感想を教えてください。

修了後にRBSで専攻していたマーケティングを活かして、キャリアチェンジを行い、今はサンスター株式会社で主に製品のプロモーション業務に従事しています。RBSに通うまでは目の前の自分がやらなければならない仕事をこなすことに必死でしたが、修了後は、会社全体の動きや他部門の苦労が理解できるようになり、組織全体の最適を考えながら仕事を進められるようになりました。専門知識による確信を持った今は、以前よりも仕事を楽しめていますし、会社に貢献している実感が持っています。また、RBSで出会った仲間との交流も続いており、日頃の業務にも活きる広い知見を得られています。社会人になってからRBSで得た知識や経験、仲間は、かけがえのないものです。

大学院進学を迷う社会人の方に、メッセージをお願いします。

大学院進学は大きな決断ですので、なかなか踏み出せないと思います。でも、何もしなければ、私自身も今のようなキャリアチェンジや、新しいことに取り組んでみようという気持ちにはならなかったと思います。最終的に進学するかどうかは別として、まずは小さな1歩として、興味のある大学院のセミナーや説明会に参加してみたいはいかがでしょうか。そこから、次にやるべきことが見えてくると思います。

CHECK
IT!

教育訓練給付制度(厚生労働省)

働く方々の主体的な能力開発やキャリア形成を支援し、雇用の安定と就職の促進を図ることを目的として、厚生労働大臣が指定する教育訓練を修了した際に、受講費用の一部が支給されるものです。

立命館大学では以下の講座で指定を受けています(2024年度参考)。

名称	金額	対象
一般教育訓練	初年度必要経費の20%相当額(上限10万円) ※初年度必要経費 入学金+授業料(減免奨学金を差し引いた額)	※以下の各研究科の修士課程・博士課程前期課程・専門職学位課程を対象とし、博士課程後期課程は経営学研究科のみ対象とします。 法学(一部コースのみ)、社会学、言語教育情報、経済学(一部コースのみ)、スポーツ健康科学、経営学、政策科学、映像、テクノロジー・マネジメント、経営管理(観光マネジメント専攻観光事業マネジメントプログラム)
専門実践教育訓練	① 受講中: 受講者が支払った教育訓練経費の50%相当額 (上限40万円/年) ② 受講の修了後: 受講者が支払った教育訓練経費の20%相当額 を追加工給	経営管理研究科(経営管理専攻マネジメントプログラム) ※①と②を合わせて 2年間で 最大112万円

支給対象者や要件などの詳細は、以下WEBサイトで紹介しています。

https://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/fellow/master/article.html/?id=34





法学研究科は法学・政治学の高度で発展的な研究を行う教育機関です。法学・政治学を究める、深める場といえます。法学研究科博士課程前期課程は、以下の3つのコースからなっています。

全てのコースが、社会人や留学生にも開放されており、多様な院生が自身の目的に照らして、最適なコースを選びより専門的な学修・研究を進める場が法学研究科です。法学研究科には次の①～⑥に記す特長があります。全てのコースが①～④を有しており、研究コース以外ではさらに⑤・⑥も備えています。

① 少人数教育：講義科目、研究指導科目ともに、少人数で密度の濃い授業

④ 精緻な分析能力と大局的な視点の醸成

② 総合的プレゼンテーション(読む・書く・聞く・話す)能力の向上：少人数授業が故に、プレゼンテーションの機会も多くなります

⑤ 法学部の長所たる「漬しがきく」点を保持：法学部の学問領域を継承するため、民間企業・公務員など幅広い分野への進路が見込めます

③ 問題発見能力・紛争解決能力の涵養

⑥ 実用としての法律学・使える法律学のさらなる研究が可能

希望の進路にあわせたコース・プログラム展開で、きめ細かく丁寧な研究指導を行います。

※本研究科は、税理士試験の科目免除に対応したカリキュラムです。

また、法学研究科博士課程後期課程には、研究コースがあり、法学・政治学の研究者となるために必要とされる知識と能力(法学・政治学に関する高度な専門知識、自ら立てた研究計画に基づいて独創性のある研究を行い、その成果を学術論文にまとめる能力)の獲得できる研究指導を行い、高い研究力量を備えた人材を養成しています。

法学研究科博士課程前期課程の3つのコース

研究コース 法学・政治学分野の研究者を養成する

研究者養成を目的としたコースです。博士課程前期課程2年、後期課程3年の「ゆるやかな5年一貫制」をとっています。論文作成に向けた個別指導が行われるほか、専門分野ごとの研究会での討論を通じて少人数のグループ指導も行われます。また、司法試験に合格した方を受け入れる後期課程入試も実施しています。

リーガル・スペシャリスト・コース 企業法務、税務のスペシャリストや法務能力を持つ公務員を養成する

■ビジネス法プログラム

民間企業や金融機関で法律専門職として活躍する人を養成するプログラムです。金融・証券関係の法制や証券化などの金融実務を学修します。

■公共法務プログラム

国家公務員総合職や地方公務員としての法学の素養の養成を想定したプログラムです。行政学、公共政策、地方自治と法など公務員に必要な法体系を学修します。

■税務プログラム

税理士や公認会計士など税務のプロフェッショナルを養成するプログラムです。税理士法人・事務所での法務実習を通じて実務感覚も涵養します。

法政リサーチ・コース 法学・政治学に関わる学修・研鑽を深める

学部段階で抱いた問題意識や学問的関心などを、より専門的に深めるためのコースです。このコースには、「政治学プログラム」と「法学プログラム」の2つのプログラムがあります。各人の興味・関心にあわせて、他コース開設科目を含めて比較的自由な履修が可能です。

■政治学プログラム

法律学科目を配置し、進路には法律職や行政職の国家・地方公務員や民間企業で活躍する人を養成するプログラムです。

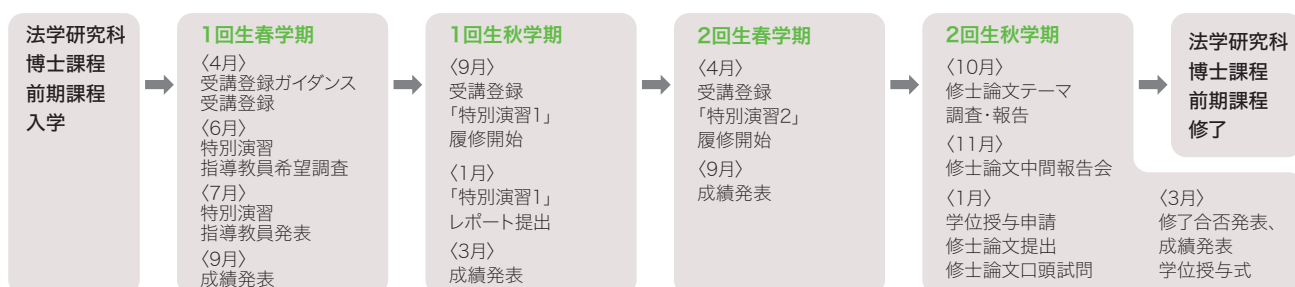
■法学プログラム

法学の基礎、企業活動、国際関係、医療生命倫理などの広い法学的な課題を問題意識として、関連する希望科目を配置しており、民間企業や法律専門職、公務員など幅広い進路を想定します。

博士課程前期課程 履修モデル

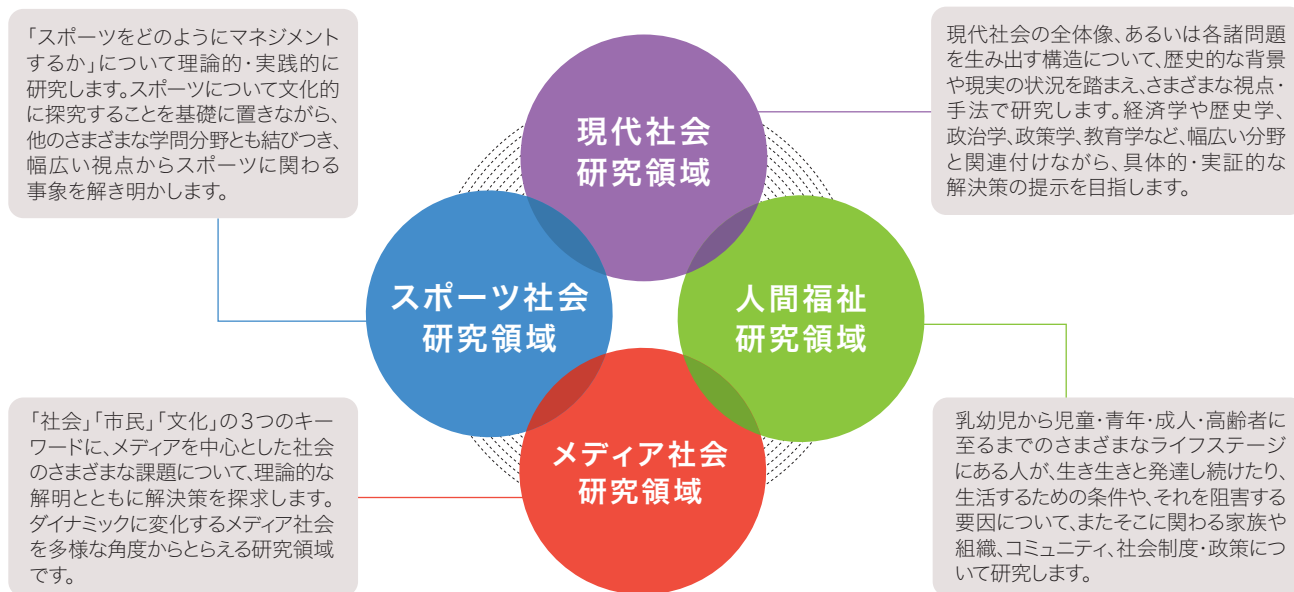
研究コース		憲法研究(講義/演習)/民法研究(講義/演習)/刑法研究(講義/演習)/政治学研究(講義/演習)/法哲学研究(講義/演習)/比較法研究(講義/演習)/外国書講読 など
リーガル・スペシャリスト・コース	ビジネス法プログラム	保険法/金融・証券法/商取引法/会社法I・II/国際経済法/国際取引法/企業法務 など
	公共法務プログラム	憲法/民法/行政法I/行政学/地方自治と法/労働法/政治学/公共政策 など
	税務プログラム	税法総論/所得税法/法人税法/消費税法/租税手続・争訟法/国際税法 など
法政リサーチ・コース	政治学プログラム	憲法/行政法I/社会保障法/行政学/政治学/現代政治分析/国際政治論/政治思想史/政治史
	公務政治分野	民法I/消費者法/商取引法/会社法/著作権法/特許法/意匠法/独占禁止法
	企業活動	国際法/国際人権法/国際私法/国際環境法/国際政治論/アジア法/英米法/西洋法史
	国際関係	憲法/刑法I/家族法/法哲学/法社会学
法学プログラム	医療生命倫理関係	法哲学/法社会学/西洋法史/日本法史/アジア法
	法学の基礎研究	

博士課程前期課程 研究指導フローチャート(リーガル・スペシャリスト・コース、法政リサーチ・コース共通)





社会学研究科は、「現代社会」「人間福祉」「スポーツ社会」「メディア社会」の**4つの研究領域**を設けています。各研究領域をベースに、時には領域を横断しながら、専門性と実践力を磨くことができます。



社会学研究科の特徴

- ・**専門性**: 研究領域ごとの「必修科目」「研究領域基幹科目」を設定し、専門性の基盤を築くカリキュラムを編成しています。
- ・**学際性**: 100名近い教員が集い、多様な知に触れることで学際的な研究を実践できます。
- ・**国際性**: 世界的な研究者によるサテライト授業や、留学生もまじえた共同研究を通じて国際性を高めます。
- ・**研究・教育環境**: さまざまな機会を通じて院生同士のコミュニティ作りを促進しています。また、研究や学びの質を高めるために院生との研究科懇談会を定期的に実施しています。

「国際化」・「プロジェクト系科目」・「資格取得」

一部科目を基本的に英語で開講しており、また英国・ランカスター大学、韓国・中央大学校など海外の大学院との合同研究、報告会の開催やDMDP(修士課程共同学位プログラム)などを通じて院生の国際交流にも力を入れています。

また、領域横断的・実践的な教育を提供するため、複数の教員による集団指導を行う横断型の「研究プロジェクト」をはじめ、「キャリア形成プロジェクト」「国際プロジェクト」などのプロジェクト系科目を設けています。

資格取得の面では、社会調査の専門的知識と技能の修得を目的とした「社会調査士・専門社会調査士課程」を設置し、キャリアアップを支援しています。また教育職員免許の一種免許状を取得している場合は、より高度な知見を教壇で活かすために専修免許状の取得が可能です。

博士課程前期課程カリキュラム紹介 [2023年度] (シラバスは後期課程も含めて社会学研究科ウェブサイトからご覧いただけます)

	M1		M2	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
研究指導科目	特別演習Ⅰ	特別演習Ⅱ	特別演習Ⅲ	特別演習Ⅳ
国際関連科目	外国語発信型科目(アカデミックライティング・アカデミックプレゼンテーション・英語リサーチスキル入門) 外国語論文講読科目(資料文献研究Ⅰ(英語)・Ⅱ(仏語)・Ⅲ(独語)) 国際社会研究科目(国際社会研究・比較社会研究・日本社会研究)			
応用科目	研究領域専門科目(産業社会研究・福祉社会研究・スポーツ社会研究・メディア社会研究など) 実習系科目(応用社会学実習A(インターンシップ型)) プロジェクト系科目(研究プロジェクト・国際プロジェクト・キャリア形成プロジェクト) 履修交流系科目(単位互換履修科目など)			
基幹科目	社会学研究法Ⅰ(スタンダード) 社会学研究法Ⅱ(アドバンスト)	社会学研究法Ⅰ(スタンダード) 社会学研究法Ⅱ(アドバンスト)	社会学研究法Ⅰ(スタンダード) 社会学研究法Ⅱ(アドバンスト)	社会学研究法Ⅰ(スタンダード) 社会学研究法Ⅱ(アドバンスト)
	研究領域基幹科目Ⅰ(領域ごと)	研究領域基幹科目Ⅱ(領域ごと)		
	社会学理論	社会学史研究		
	社会調査研究Ⅰ	社会調査研究Ⅱ		
	多変量解析法Ⅰ	多変量解析法Ⅱ		
	社会統計研究			



プログラムの特徴

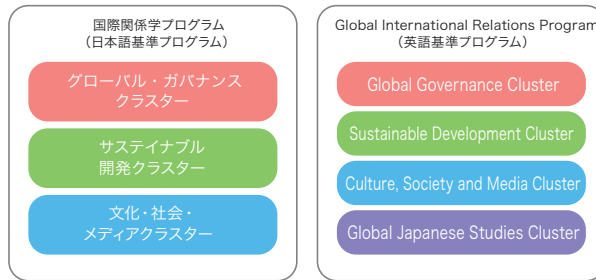
本研究科の博士課程前期課程は、日本語と英語という学修言語で分かれる2つのプログラムで構成されています。本研究科の特徴の一つは、ディシプリンに関して、緩やかな研究領域(科目群)を示す役割として、クラスターという概念を用いていることにあります。各クラスターには特徴があります。「サステイナブル開発クラスター/Sustainable Development Cluster」は、先進国、途上国における持続可能な繁栄を追求するために、経済理論、経済学というディシプリンと、政策評価や立案に関わる実践系科目をバランスよく学びます。「グローバル・ガバナンスクラスター/Global Governance Cluster」は、平和と民主主義に関する様々な問題を、グローバルな視点とローカルな視点を重視しつつ、理論と実践を学びます。「文化・社会・メディアクラスター/Culture, Society and Media Cluster」は、グローバル化という文脈に即しながら、文化理論と社会理論の基礎を学び、メディア・文化研究の主要なアプローチを学びます。「Global Japanese Studies Cluster」は、英語で日本について研究できるという特徴を最大限に生かし、日本研究の基礎から発展まで全て英語で学修し、日本から見た世界を、世界から見た日本を視点にした研究を学びます。



国際関係学プログラム (日本語で学修するプログラム)

狭義の国際関係学という枠組みを越え、政治、経済、文化・社会・メディアという縦軸に、地域研究という横軸が走り、多様な領域を横断する極めて学際的な研究と教育を指向している点に大きな特徴があります。この学問体系を可視化するものとしてクラスターを用いています。先端的な地域研究の醍醐味と、政治・経済・文化社会メディアの各ディシプリンを横断する学びの魅力に触れてほしいと思います。

日本語基準プログラム/英語基準プログラム



Global International Relations Program (英語で学修するプログラム)

Global Governance Cluster, Sustainable Development Cluster, Culture, Society and Media Cluster, Global Japanese Studies Cluster という4つのクラスターで構成された幅広いテーマを提供します。これらの科目とともに、東アジア研究、東南アジア研究、欧州研究、アフリカ研究、中東研究を含むさまざまな地域研究を提供します。学生は、21世紀のグローバルな課題を理解するために、専門分野と地域研究の観点をうまく組み合わせた学修を経て、成長することが期待されます。

特徴

1. 1992年開設で歴史ある大学院

多くの国際系大学院がありますが、国際関係学を学ぶ大学院として、西日本で最初に開設され、教員および学生の研究や修了後の多様な進路実績があります。

2. 日本語、英語で学位取得可能

日本語、英語それぞれの言語で構成されたカリキュラムのいずれかが選択可能です。

3. 幅広く多様なディシプリンで形成された国際関係学のカリキュラム

政治、経済/開発、文化・社会・メディアといった幅広いディシプリンで形成された国際関係学のカリキュラムを学ぶことができ、越境する国際諸問題の理解学習に必要な複数のディシプリンによる論文指導を複数指導教員体制の下、受けることができます。

4. 世界各地を網羅した豊富な地域研究の提供▶ダイナミックな国際情勢を学ぶ

北米、中南米、中東、アフリカ、日本、東アジア、東南アジア、南アジア、ヨーロッパまで網羅した科目の提供と論文指導が可能です。

5. 国際的な大学院ネットワーク(APSIA)へ、日本唯一の正会員加盟

ハーバード大学、イェール大学を始めとした世界の国際関係学をリードする大学院が集まる、国際的な大学院ネットワーク(APSIA)に日本の大学・大学院の中で唯一正会員として加盟し、国際関係学の教育・研究で日本をリードする存在として世界的に認められています。

6. 将来、国際機関等で働く人材を育成するプログラム

国際機関への進路就職を目指す方を対象に、講義から実務に至るまでの理論と実践の場を提供します。(国際機関セミナー(正課科目)ほか)

7. 世界で学ぶ▶Dual Master's Degree Program(DMDP)

約1年間、海外の大学に留学し、最短2年間で2つの修士号を取得できる画期的な制度です。

イースト・アングリア大学【イギリス】 アメリカン大学国際関係大学院【アメリカ】 エラスムス大学ロッテルダム・社会科学大学院大学(ISS)【オランダ】 国立政治大学【台湾】 ロンドン大学ロイヤルハロウェイ校【イギリス】 ヨーク大学【イギリス】 慶熙(キョンヒ)大学【韓国】

8. エキスパートから学ぶ▶経験豊富な実務家教員

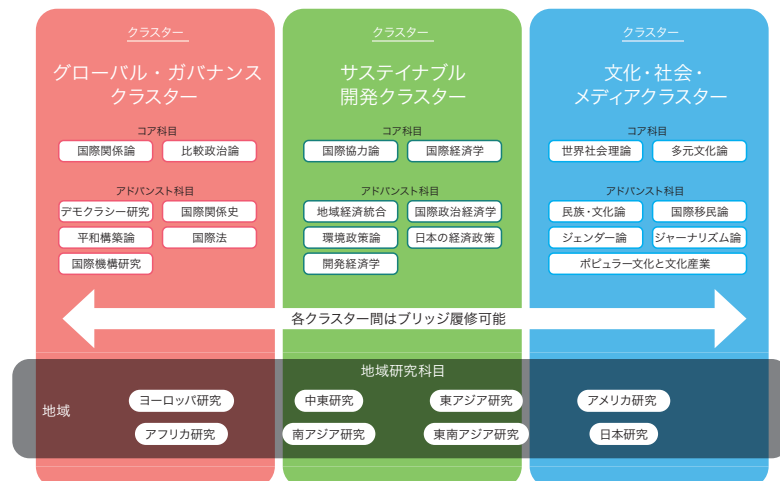
元国連事務総長特別代表、株式会社 国際協力銀行、独立行政法人 国際協力機構(JICA)による研究やキャリア形成に資する講義科目を配置しています。

9. 多様性から学ぶ▶世界各国・地域から集う留学生と高めあう

世界各地から留学生が集い、その数は在学院生の半数以上を占めています。留学生の出身国・地域(2022年度 秋学期 博士課程前期課程および後期課程在籍者)(順不同) <東アジア>:中国、韓国、台湾、日本 <東南アジア>:インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、ラオス <南アジア>:インド、ネパール、ブータン、スリランカ、モルディブ <中央アジア>:キルギス <大洋州>:バヌアツ <北南米>:アメリカ、コロンビア <ヨーロッパ>:イギリス、イタリア、スロベニア、ハンガリー、オランダ、スウェーデン、スペイン、ノルウェー、ロシア、ブルガリア <中東>:クウェート、バーレーン <アフリカ>:ウガンダ、ガーナ、エジプト、トルコ

クラスターと主な開講科目一覧

国際関係学プログラム(日本語基準プログラム)



グローバル・ガバナンスクラスター

国際政治、国際法、国際関係史、などを学問領域・理論と実践・実証からバランスよく学び、加えて西洋、非西洋での平和に関する諸課題を総合的かつ体系的に学ぶクラスターになります。

サステイナブル開発クラスター

国際協力論、経済理論、経済学というディシプリンと、政策評価や立案に関わる実践系科目をバランスよく配置し、先進国および途上国における持続可能な繁栄を追求することをテーマに、総合的かつ体系的に学ぶクラスターになります。

文化・社会・メディアクラスター

グローバル化という文脈に即しながら文化理論と社会理論の基礎を学び、メディア・文化研究の主要な概念を網羅します。人種や民族からメディア・ポピュラー文化と文化産業に至るまでの学習を総合的かつ体系的に学ぶクラスターになります。

左記以外の開講科目(一例)

※詳しくはウェブサイトをご覧ください。

リサーチメソッド・リサーチデザイン、国際機関セミナー、アカデミック・ライティング(日本語) Professional Training; International Cooperation, Professional Training; Diplomacy, Research Training

※入学者の所属はプログラムのみで、いずれのクラスターで分類される科目も履修することが可能です。
※全ての科目が毎年開講されるものではありませんので、詳しくは入学後のオリエンテーション等で正確な情報をご確認ください。



多様な教育・研究を生み出す2つの専攻、14の専修

文学研究科は人文学専攻と行動文化情報学専攻による、2専攻14専修の体制となっています。伝統的な人文学に加え、情報技術と人文学を融合させたこれまでにない新しい学問分野を展開しています。

文学研究科	人文学専攻	哲学専修	現象学の系譜に連なる近現代の哲学やフランス現代思想、近現代の倫理学や応用倫理といった諸分野にスタッフを配置し、哲学の歴史と伝統を踏まえつつ、人間存在を取り巻く根源的・現代的課題に迫ります。
		教育人間学専修	「人間であること、人間になること、人間を超えること」を全体コンセプトとして、教育と人間のかかわりを多角的に考究します。その出発点は、生まれ、育ち、出会いや別れをへて、やがて老い、死にゆく人間の営みに対する驚きと悲しみです。
		日本文学・日本語学専修	日本文学研究と日本文化研究とを融合させた学際的、国際的な「日本研究」、情報技術を活用した「コーパス日本語学」の実践を通して、最先端の研究手法を身につけ、日本文学、日本文化、日本語の核心に迫ります。
		中国文学・思想専修	悠久の歴史の中ではぐくまれ、東アジアの文化に大きな影響力をもつ中国の文学や思想に関する高い識見を養い、そこに存在する興味深い問題について清新な研究を展開します。
		英米文学専修	英米を中心とする英語文学・文化を広く深くカバーする専門分野の教員が指導に当たり、高度な英語力や分析力を養います。研究職はもとより、英語力が要求される多様な職場への就職が考えられます。
		日本史学専修	古代から現代に至る各時代のスペシャリストが、伝統ある「立命史学」に立脚した新たな歴史学を構築します。全国各地で教員・学芸員として活躍する先輩たちとのネットワークも充実しています。
		東洋史学専修	中国を中心とする東アジア世界を、その起源に遡って研究します。そのための方法としての原典読解は、昨今の東アジア諸地域におけるダイナミックな動きの原点を探る上で有益でしょう。
		ヨーロッパ・イスラーム史専修	ヨーロッパやイスラーム世界の様々な地域・時代・分野を専門とする多様な教員が、ヨーロッパ・イスラーム史研究の世界的な研究拠点を立命館大学に築くべく、大学院生とともに研究を進めています。
		文化動態学専修 【博士課程前期課程のみの募集】	比較文化論、言語学、歴史学、美術史、現代芸術批評、音楽文化論、社会思想史、文化人類学等の専門領域を横断しながら文化のダイナミズムに取り組める専修です。
		現代東アジア言語・文化学専修	中国（台湾・香港などを含む）・朝鮮半島を領域とし、そこにおける言語・現代文化・現代史を教学分野として、中国語・朝鮮語の実践的なコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな東アジア人を育成します。
		英語圏文化専修	応用言語学および英語圏文化の歴史、文化・文学を分野横断的に研究します。高度な専門性を磨きつつ学際的な思考力を身につけます。また、これらの研究を通して国際的に活躍できる英語運用能力を養います。
	行動文化情報学専攻	地理学・地域観光学専修	空間的視座から地球上の多様な現象を解明する「地理学」と、地理学を軸としつつ社会学・文化人類学等の知見を取り入れた学際的視座から観光現象を解明する「地域観光学」に関し、質の高い教育・研究を展開します。
		文化情報学専修	人文学に情報技術を取り入れたデジタル・ヒューマニティーズの手法を応用し、世界に誇る日本文化・芸術・文化遺産をテーマに、研究手法の格段の効率化を図り、魅力的で豊富な専門知識をキュレーションできる人材を育成します。
		考古学・文化遺産専修	人類の残した遺跡や遺物から歴史を復原する考古学を学ぶと同時に、遺跡や遺物を中心とする文化遺産の保存と活用について学びます。日本列島の考古学と文化遺産が対象ですが、日本列島以外についても広く学ぶことが可能です。

大学院生の目的に応じた2つのコースを設置【博士課程前期課程】

前期課程では、様々な目的を持つ人を受け入れるため、2つのコース（高度探究コース、研究一貫コース）を導入しています。コースは入学試験出願時に決定し、入学後はそれぞれの目標に沿って研究を進めていきます。

高度探究コース

人文学をより深く学ぶコース。社会的要請に対応する知識、技能および経験を持ち、現代の多様な問題に対処できる人材を育成します。博士課程前期課程修了後、大学院で学んだ知識や経験を活かし、中学・高等学校教員、民間企業、公務員、学芸員などの多様な分野での就職を目指す人。また現役の有識者で、より専門的な能力を身につけることを目指す人などを対象とします。

研究一貫コース

研究者を目指すコース。博士課程後期課程に進学して博士学位を取得することを目指す人を対象とします。研究者となるための基本的素養を修得するとともに、博士課程後期課程へ進学できる人材を育成します。



先端的なテーマを総合的に研究し、研究者を養成するために、2003年4月に開設された一貫制博士課程の独立研究科。「核心としての倫理」を軸として、「公共」「生命」「共生」「表象」という4つのテーマ領域のもとで、本学の研究所・センターと連携し、学内外の研究者とネットワークを構築して、ディシプリンを横断するプロジェクト研究を行い、大学院院生を共同研究者として参画させることによって、研究者養成を進めています。2025年度カリキュラム改革により、教育と研究がシームレスにつながるカリキュラムを提供し、次世代研究大学の実現を目指します。

《生命》争点としての生命

生命科学・医療・福祉をめぐる科学的知識・技術の歴史的検討、倫理的諸問題の整理を通じて、生命・生殖・病・死を総合的に探究し、新しい生命の理解と倫理の構築可能性を開く。

- 生命論の理論的争点 小泉 義之(哲学・倫理学)
- 責任概念をめぐる探究 戸谷 洋志(哲学・倫理学)
- 生命と技術の倫理 松原 洋子(科学史・科学技術論)
- 医療・身体性・グローバリゼーション・思想 美馬 達哉(医療社会学)

《公共》21世紀における公共性

身体をめぐる言説・運動・政策の変容過程を検討しつつ、断片的な生のあり方を拾いあげながら、デモクラシーと生存のための社会システムの公共性を探る。

- 精神医療史・医療社会学 後藤 基行(歴史社会学・医療社会学)

《表象》文化と芸術の表象論的分析

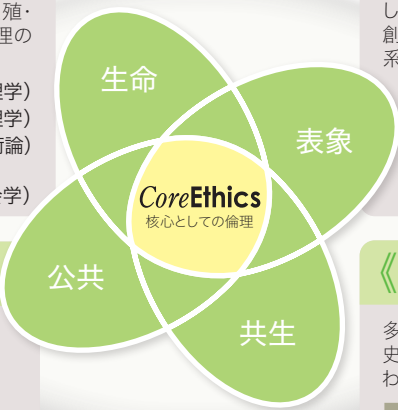
文化と芸術の諸事象を表象論的観点から読解・分析します。技術、歴史、思想、実践への理解を主軸とし、創造と受容の場、諸々の文脈、メディアといった問題系へとアプローチ。

- 社会におけるアートの作用機序 竹中 悠美(芸術学)
- 現代哲学と批評のあいだで思考する 千葉 雅也(哲学・表象文化論)
- ゲーム・デジタルメディア表現論 M・ロート(メディア・日本地域研究)

《共生》共生の可能性と限界

多大な犠牲を伴う不完全な共生実験であった人間の歴史を批判的に遡りつつ、未来に向けて、そうした犠牲を伴わない生命と生活の可能性を構築する方途を探る。

- フィールドスタディの拡張 阿部朋恒(文化人類学)
- 狡知と生き方・働き方の人類学的研究 小川 さやか(文化人類学・アフリカ地域研究)
- 責任概念をめぐる探究 戸谷 洋志(哲学・倫理学)
- カタストロフィと文学 西 成彦(比較文学)



カリキュラム表

分野	科目名
基礎講読科目	超領域講読演習
応用講読科目	公共講読演習 生命講読演習 共生講読演習 表象講読演習
主題別科目	公共論 生命論 共生論 表象論 特殊講義
サポート科目	デジタルデザイン アカデミックライティング リサーチマネジメント
プロジェクト科目	プロジェクト予備演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 超領域実践プロジェクト 情報生産プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
他大学院科目	単位互換履修科目
大学院科目	大学院コアオブ演習



★学位授与数【博士(学術)】

2003年4月の研究科設置以来、158名の博士学位取得者を輩出。(2024年3月31日現在)

★刊行物

- 先端総合学術研究科紀要「コアエシックス」(外部査読員による査読付き雑誌)
- 修士生、教員多数の著作物あり。くわしくは先端研ウェブサイトをご覧ください。

★アカデミックキャリアに多数決定

(詳細は先端研パンフレット参照)

一貫制博士課程

前期課程相当

1年生 2年生
博士予備論文合格
30単位修得
(修士学位取得可能)^{※1}

3年生 4年生 5年生～

- 情報生産プロジェクト演習8単位
- 博士論文構想発表会合格
- 査読付き論文3本

後期課程相当

博士論文提出 → 審査 → 博士号

※1 2年以上在学し、所定の単位を修得し退学する場合に修士学位を授与することがあります。

3年次転入学^{※2}

※2 受験資格は入学試験要項を参照してください。

最近の博士論文テーマ

- 知的障害者向け「わかりやすい選挙」—東京都狛江市の実践、新しい権利保障として—
- 〈延命〉の倫理—医療と看護における
- 2000年代以後の生活保護政策決定における地方の影響力増大と「自立支援」の関係
- 希少難病と生きる—表皮水疱症者を巡る医療・福祉—
- 生／死をめぐる意思決定の倫理
- 原爆体験の集合的記憶と原民喜—広島原爆の文学的「言葉」の想起めぐって



博士課程前期課程

前期課程では、「経済理論・政策コース」「地域経済・地域マネジメントコース」「税理・財務コース」「Master's Program in Economic Development (MPED)」の4コース制とし、それぞれの人材育成目的の下、少人数による研究指導やカリキュラムの充実を図っています。外国人留学生を積極的に受け入れ、特にMPEDは留学生を中心としてすべて英語による授業を行っています。世界的に高まっている高度なスキルを持つ人材へのニーズにこたえるため、国際通用力の高い論理的思考力と構想力および創造性を持った人材を養成しています。

経済理論・政策コース

さまざまな経済問題を深く研究し、高度な論理的思考力、調査分析能力、問題解決能力、政策提言能力を育成します。経済学のスペシャリストとして、民間企業や官庁で中心となって活躍できる人材を養成します。

地域経済・地域マネジメントコース

経済理論を基礎に、地域経済の分析と政策立案、そして地域をマネジメントできる能力を涵養する教育を行います。困難に直面する地域経済の持続可能な発展のための政策提案ができる、現場に通じた官民の高度専門職業人を養成します。

知のプロフェッショナルになる

税理・財務コース

経済学を基礎としながら、法学や経営学との境界領域を含む教育を行い、公認会計士、税理士、企業における税務・企業財務・会計のスペシャリストを養成します。税理士の資格取得を支援し、時代のニーズに合った高度専門職業人を育成します。

Master's Program in Economic Development (MPED)

すべて英語による国際標準の経済学教育を行い、経済学を基礎とする問題解決能力、政策提言能力を身に付け、世界を舞台に活躍する国際的専門職業人を養成します。途上国を中心に多くの国から多数の留学生を受け入れ、国際色豊かな教育を行っています。

博士課程後期課程

後期課程では、広い視野と深い専門性および優れた独創性を持ち、新たな領域の研究分野を自ら切り開いてゆくことができる高い研究力量を備えた研究者を養成しています。この結果さまざまな大学や研究機関に多くの人材を輩出しています。

コース・カリキュラム紹介

	経済理論・政策コース	地域経済・地域マネジメントコース	税理・財務コース	MPED
1. 博士課程前期課程 (主な科目)	社会科学概論 ミクロ経済理論 マクロ経済理論 計量経済学 経済史 経済政策 経済理論 社会政策論	地域政策 地域マネジメント論 経済統計 社会科学概論 ミクロ経済理論 マクロ経済理論 地域ブランド論 観光経済論 アグリビジネス論	税法 租税制度論 国際課税 租税各論 商法・会社法 税務会計 インターンシップ	Microeconomics Macroeconomics Econometrics Japanese Economy Frontiers of International Project Development Infrastructure Development Policy Development Economics International Economics Financial Economics Applied Economics Elementary Seminar Research Seminar Special Seminar
2. 博士課程後期課程 (主な科目)	財政学 国際金融 経済発展論 経済学特別演習	金融論 国際経済論 応用経済研究 経済学研究演習		特別講義

修了要件

前期課程

修了するためには、2年以上在学し、コア系4単位以上および経済学特別演習Ⅰ、経済学特別演習Ⅱ、経済学研究演習Ⅰ、経済学研究演習Ⅱを含めて30単位以上を修得し、修士論文を提出し、それに基づく最終試験に合格しなければいけません。(MPEDの場合、コア系4単位以上およびElementary SeminarⅠ、Elementary SeminarⅡ、Special SeminarⅠ、Special SeminarⅡ)

後期課程

修了するためには、3年以上在学し、研究演習Ⅰ(2単位)、研究演習Ⅱ(2単位)、研究演習Ⅲ(2単位)、研究演習Ⅳ(2単位)、研究演習Ⅴ(2単位)、研究演習Ⅵ(2単位)を含めて12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士学位請求論文を提出し、それに基づく博士学位授与審査に合格しなければいけません。

過去の修士論文タイトル例

- 人民元国際化とデジタル人民元の役割 非伝統的な観点からの考察
- ハードウェア・ソフトウェア・プラットフォーム市場における製品差別化の研究
- 医療提供体制の現状と課題—コロナショックを基点に—
- 国外転出時課税の対象資産に関する考察
- Impact of trade liberalization on tax revenue
- Financial Development and Energy Mix in Sub-Saharan African Countries



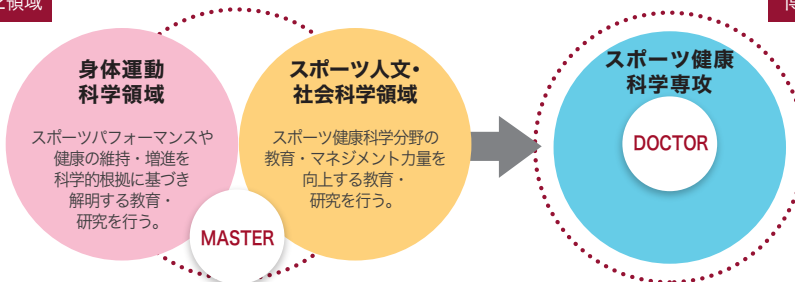
「ヒト・ひと・人を科学する」ための学び

博士課程前期課程：1専攻・2領域

スポーツ健康科学専攻

【人材育成目的】

スポーツ健康科学の教育・研究における智の融合を通して、人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するとともに、スポーツ健康科学に関する専門性を有し、志高く未来を拓く人材を育成することを目的とします。



博士課程後期課程：1専攻

【人材育成目的】

スポーツ健康科学の教育・研究における智の融合を通して、人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するとともに、スポーツ健康科学に関する高度な専門性を有し、志高く未来を拓く人材を育成することを目的とします。

文理融合を奏でるカリキュラム

前期課程	基礎科目 (6単位以上)	身体運動科学領域 (4単位以上)	スポーツ科学特論		健康運動科学特論			
		スポーツ人文・社会科学領域 (4単位以上)	スポーツ教育学特論		スポーツマネジメント特論			
		共通科目	学術論文作成方法特論		専門英語			
	展開科目 (10単位以上)	文理融合科目(4単位以上)	スポーツ健康科学領域融合演習Ⅰ		スポーツ健康科学領域融合演習Ⅱ			
		キャリア形成科目 (6単位以上)	スポーツ健康科学キャリアプロジェクト インターンシップ		スポーツ健康科学エグゼクティブレクチャーⅠ	スポーツ健康科学エグゼクティブレクチャーⅡ	スポーツ健康科学グローバルレクチャーⅠ	スポーツ健康科学グローバルレクチャーⅡ
	演習科目 (8単位以上)	演習(6単位以上)	身体運動科学演習Ⅰ		身体運動科学演習Ⅱ		身体運動科学演習Ⅲ	
			スポーツ人文・社会科学演習Ⅰ		スポーツ人文・社会科学演習Ⅱ		スポーツ人文・社会科学演習Ⅲ	
	研究指導(2単位以上)	研究指導Ⅰ 研究指導Ⅲ		研究指導Ⅱ 研究指導Ⅳ				
	自由科目		単位互換履修科目		大学院コアオブ演習			
前期課程：合計30単位以上								
後期課程	講義科目(2単位以上)		フロンティアサイエンスプロジェクト		フロンティアサイエンスレクチャー			
	演習科目(4単位以上)		先端スポーツ健康科学特別研究Ⅰ～Ⅵ					
	後期課程：合計6単位以上							

本研究科修了生 修士論文・博士論文テーマ(一部) ●：修士論文 ■：博士論文

- 自発的低換気を用いた高強度トレーニングの効果—低酸素環境でのトレーニングと比較して—
- 一過性運動における運動強度および運動時間が唾液中IgA分泌量に及ぼす影響
- 休息中に血流制限を付加したスプリントインターバルトレーニングの効果
- 低酸素環境で行う持久性運動がその後の消化管機能に及ぼす影響
- 校庭におけるアフォーダンスが児童の身体活動に与える影響—自由遊びに着目して—
- チーム内・外の他者との交流が妬み感情の緩和に及ぼす影響
- 高校生サッカーゴールキーパーの状況判断能力向上のための実践的研究—AR(拡張現実)を用いた状況判断能力の向上に着目して—
- 夏季環境における高校野球選手の朝食摂取と身体組成および疲労感の関係
- サッカーの守備で用いられるスプリントスタート技術が加速や方位変換に及ぼす影響
- Associations of the Morphological Profiles of Individual Plantar Intrinsic Foot Muscles with Foot Structure and Toe Flexor Strength
- 運動誘発性の鉄欠乏の新たな要因の検討：ヘプシジン分泌応答に着目して
- 暑熱・低酸素環境での間欠的スプリントトレーニングの効果
- ファストウォーキングの生理学的・力学的特性—同一速度でのランニングと比較して—
- 一過性の静的ストレッチによる血流依存的なshear stressの増大が動脈硬化度に及ぼす影響
- 男性陸上長距離選手の疲労骨折に関する研究

本研究科修了生 就職先一覧(一部)

- トップアスリートを支える
国立スポーツ科学センター(JISS)
- 医薬品で人々の健康を守る
大塚製薬(株) クラシエ製薬(株) ミナト医科学(株)
- 健康的なライフスタイルをプロデュースする
(株)東急スポーツオアシス (株)ルネサンス
- 人々の暮らしに役立つ製品を生み出す
オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)
(株)バンダイ (株)ニューバランスジャパン
- 人々の質の高い生活をサポートする
アサヒビール(株) キュービー(株)
KDDI(株) ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
(株)ソフトウェア・サービス
- ビジネス・パフォーマンスの向上を提案する
アクセンチュア(株)
- 企業と人々を結びつける
(株)リクルートホールディングス
(株)インテリジェンス (株)ウィルグループ
- 地元経済の発展に寄与する
(株)西日本シティ銀行
- 人々の暮らしの仕組みと豊かなまちを創る
地方公務員(上級職)
- 未来を生み出す人を育てる
教員 (学)立命館
- 世の中に起こる様々な事象を伝える
関西テレビ放送(株)

日本学術振興会特別研究員採用率

「日本学術振興会特別研究員」とは、国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。本研究科院生は【2017年度～2023年度の平均採用率：26.7%】と、他大学大学院同分野と比較しても高い採用率を堅持しています！



自らの研究で日本や世界の「食」を変革する壮大な夢の実現へ

	博士課程前期課程	博士課程後期課程
修業年限	2年	3年
入学定員	20名(収容定員40名)	3名(収容定員9名)
取得学位	修士(食マネジメント)	博士(食マネジメント)

人材育成目的

研究科共通

食マネジメント研究科は、経済学・経営学の専門的知見を用いて、食に関わる経済活動を研究し、実践的なマネジメント能力を備えた高度専門職業人および研究者の育成を目的とする。

博士課程前期課程

食に関わる多様な視点を、経済学・経営学を軸として社会実装に導入し、食に関わる経済活動をめぐる諸課題の解決へ向けて応用することができる高度専門職業人を育成する。

博士課程後期課程

食マネジメント研究の発展に寄与する研究活動を行い、ここで培ったマネジメント能力を用いて研究成果を社会に還元するとともに、研究倫理を有しつつ学術的手法を用いることができる研究者を育成する。

修了要件とカリキュラム

博士課程前期課程

科目区分		修了要件		科目名称			
		必要単位数	合計				
基礎科目		8単位以上	30単位以上	食マネジメント特論	ミクロ経済学特論	マクロ経済学特論	統計学特論
				経営組織特論	会計学特論	マーケティング特論	食総合特論
展開科目	A群	8単位以上		産業組織特論	行動経済学特論	国際経済学特論	食料経済学特論
				ファイナンス特論	経営戦略特論	食サービスマネジメント特論	食のリスクマネジメント特論
	B群	—		商品開発特論Ⅰ	商品開発特論Ⅱ		
研究演習		6単位以上		食の地理学特論	食の歴史学特論	比較食文化特論	食の社会学特論
その他		—		フードクリティック特論	食の公共政策特論	健康マネジメント特論	食と認知科学特論
				研究演習Ⅰ	研究演習Ⅱ	研究演習Ⅲ	研究演習Ⅳ
				アカデミックイングリッシュ	食マネジメント実践特論		

基礎科目

産業・企業・消費・政策の基礎理論 ミクロ経済学特論・マクロ経済学特論・経営組織特論・マーケティング特論など

展開科目 A群

食の産業・企業・消費・政策の理論と実践
産業組織特論・行動経済学特論・ファイナンス特論・経営戦略特論など

展開科目 B群

食の文化・歴史・健康などの理論と実践
食の地理学特論・比較食文化特論・食の社会学特論・健康マネジメント特論など

主な社会的重点課題

①食産業の経営・イノベーション

②食を通じた多文化共生の地域社会づくり

③食を通じた福祉・健康コーディネーション

演習・修士論文

高度なマネジメント人材

博士課程後期課程

科目区分		修了要件		科目名称			
		必要単位数	合計				
共通科目		4単位以上	12単位以上	特別講義Ⅰ	特別講義Ⅱ	特別講義Ⅲ	
実践科目		—		研究実践Ⅰ	研究実践Ⅱ		
研究演習科目		8単位以上		特別研究Ⅰ 特別研究Ⅴ	特別研究Ⅱ 特別研究Ⅵ	特別研究Ⅲ	特別研究Ⅳ



研究科の特徴

今、めまぐるしいスピードで科学技術が変化・進展し、社会や産業も変わり続けています。理工学研究科は、理学と工学の伝統的な高度な理論・技術だけでなく、IoTやAIまで、あるいはハードウェアからソフトウェア、高齢化社会対応問題、地球規模の環境問題などまで、幅広く取り組みます。そして、新しい価値を創造できる研究者や高度専門技術者の育成を目指します。海外科学技術実習を支援するプログラムによってグローバルに活躍できる研究者や高度専門技術者の育成も目指しています。

4つの専攻

基礎理工学専攻 数理科学コース 物理科学コース

ファイナンスや情報セキュリティ分野における数理科学、エネルギー問題やナノテクノロジーにおける物理科学と工学の融合など、多分野とも関連を持って発展する学問分野を研究します。

電子システム専攻 電子システムコース

毎日の生活を支えるエレクトロニクスや光工学、高性能かつ大規模な電子・情報システムなど、多岐にわたる電気電子工学領域を研究します。

機械システム専攻 機械工学コース ロボティクスコース
マイクロ機械コース

機械工学・ロボティクス・マイクロ機械工学に基礎を置き、これらの融合分野をも包括した教育・研究を行います。

環境都市専攻 都市システム工学コース
環境システム工学コース
建築都市デザインコース

都市の社会基盤の整備、地球環境問題やバリアフリーへの配慮など、安全な社会生活を送るために解決すべき課題について教育・研究を行います。

博士課程前期課程

博士課程後期課程



教育・研究の世界展開

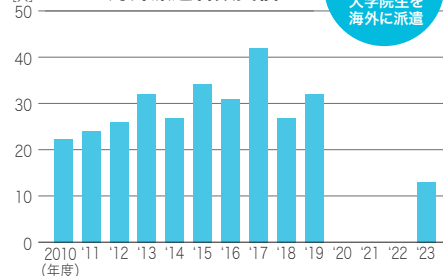
実践的英語力を身につけ、海外での武者修行に挑む

理工学研究科では、世界各国から留学生を受入れるとともに、多くの日本人学生を海外に派遣しています。「国際的なフィールドで活躍するための意欲や素養・経験を身につけたリーダーとなり得る理工系技術者・研究者の養成」を目標に、Global-ready Graduate Program (GRGP) はその前身となるプログラムを2007年度にスタートさせました。正課で理工系学生の研究推進に必要な実践的英語コミュニケーション能力を集中的に身につけさせるとともに、学生を世界各国の大学・研究機関・企業での留学に送り出しています。

インドのトップクラス理工系大学との教育・研究交流

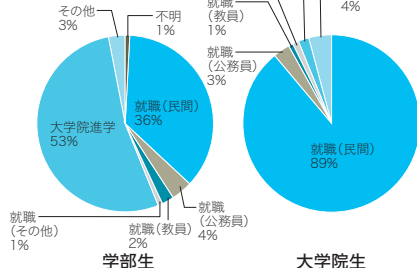
立命館大学理工系3学部・3研究科は、以前からインド工科大学ハイデラバード校(以下、IITH)やニッテ大学NMAMIT、シンピオシス国際大学など、インドの理工系大学と様々な学生・研究交流等を進めています。「インド工科大学ハイデラバード校PBLプログラム」では、インドが直面している様々な課題について、事前講義で調査・解決方法を提案し、IITHでの現地研修(7日間程度)において、企業訪問や施設見学、IITH学生とのPBL(Problem/Project Based Learning)を行います。PBLを進める中で課題を発見し、その解決策を見つけて出すプロセスの重要性を学び、思考力・推進力・チームワーク・英語でのコミュニケーション力等を身につけます。

GRGP海外派遣者数実績

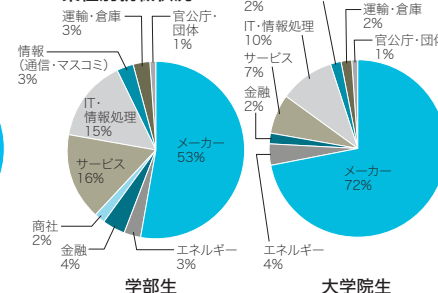
14年間で
310名の
大学院生を
海外に派遣

大学院修了者の就職実績(2023年3月卒)

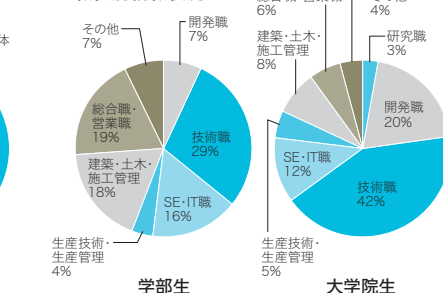
理工学の専門性を活かすためには、大学院修了が大変優位です。特にメーカーではその差は顕著です。また、「研究職・設計職・開発職」へ従事する割合についても、学部卒を上回っています。 ※円グラフの数値(%)は、小数点以下を四捨五入したものであり、端数処理の関係で100%にならない場合があります。

■進路・就職状況
(進路区分別)

■業種別就職状況



■職種別就職状況





MASTER 博士課程前期課程

生命科学専攻

応用化学コース

応用化学コースでは、物理化学・無機化学・分析化学・有機化学・生化学などを基盤として、物質の機能を解明するための、また、新物質の創製を実践するための化学的理論と技術を幅広く学びます。材料化学からエネルギー、生体関連物質まで、幅広い分野で研究を展開します。

【キーワード】

●新物質 ●ナノテクノロジー ●環境分析 ●エネルギー変換 ●機能材料

生物工学コース

生物工学コースでは、生化学、分子生物学、微生物学などを基盤とし、環境、食料、資源、エネルギーに関連する生物工学理論や技術を幅広く学びます。また、生物機能、生態系の構造・機能の解析や生物由来生理活性物質の解明などの基礎研究、ならびに、これらを基盤とした環境、食料、資源、エネルギーに関する応用研究を展開します。

【キーワード】

●微生物 ●バイオエネルギー ●分子生物学 ●環境浄化 ●生物資源 ●植物

生命情報学コース

生命情報学コースでは、コンピューター（情報科学）を利用して、生命活動の仕組みを解明することを目的として、その基礎となる生命科学、情報科学、生物機能の解析技術に関する専門知識を幅広く学びます。その上で、遺伝情報、タンパク分子構造—機能相関、生体機能などの数理解析に関する研究を行い、生命科学、医学薬学、食品、情報技術に関連した研究を展開します。

【キーワード】

●システムバイオロジー ●ゲノム解析 ●情報科学 ●バイオインフォマティクス

生命医科学コース

生命医科学コースでは、多岐にわたる基礎医学の先端領域とその融合領域を学び、未知の生命現象や様々な疾病の発症機構を解明します。更に、先端技術で開発された医薬品などの新規医療技術の適切な評価と社会への応用方法も学び、広く生命医科学研究を展開します。

【キーワード】

●再生医学 ●癌 ●脳科学 ●生活習慣病 ●生薬 ●稀少疾患
●医用材料 ●医療政策

博士課程
後期課程

DOCTOR 博士課程後期課程

生命科学専攻

生命科学専攻では、博士課程後期課程に相応しい高度な専門の実験・実習設備、および機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携、国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。

教員の研究内容については、生命科学研究科ウェブサイトでご確認ください。

修了要件とカリキュラム

前期課程

科目区分	必要単位数	合計
共通科目	4単位以上	30単位以上
コア科目	10単位以上※	
専門科目		
選択科目		
研究科目	16単位	

※コア科目は3科目6単位以上修得する必要があります。

後期課程

科目区分	必要単位数	合計
専門科目	—	8単位以上
研究科目	8単位以上	

専門科目(コア科目)(前期課程)

【応用化学コース】

物性・反応化学特論
構造物理化学特論
無機構造物性化学特論
無機機能材料化学特論
応用生物化学特論
X線分析化学特論
有機分子化学特論
有機機能材料化学特論
反応物理化学特論
有機反応・構造化学特論

【生物工学コース】

環境バイオテクノロジー特論
エネルギー・資源バイオテクノロジー特論
食料バイオテクノロジー特論
生物工学研究特論

【生命情報学コース】

ゲノム情報学特論
分子構造・機能学特論
数理生体機能学特論
分子設計学特論
生体分子ネットワーク特論
植物生理学特論

【生命医科学コース】

基礎生命医科学特論
応用生命医科学特論
先端生命医科学特論
生命医科学研究法概論

研究科目(前期課程)

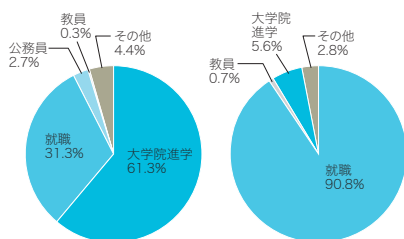
生命科学特殊研究1～4

研究科目(後期課程)

生命科学特別研究1～6

就職実績(2023年3月卒)

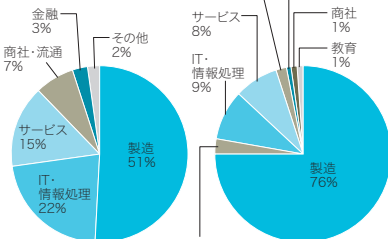
■進路決定状況



学部生

大学院生

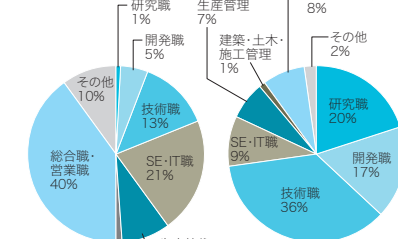
■業種別就職状況



学部生

大学院生

■職種別就職状況



学部生

大学院生



薬学専攻

高度化する医療において、先導的な役割を果たす薬剤師・医療人・研究者を養成

4
年
制

薬学専攻博士課程

医療薬学分野と病態生理解析分野の2つの分野を設けて教育・研究を行います。それぞれの専門分野にとどまらず、基礎薬学から臨床薬学に至る幅広い領域の最先端の知識取得が可能となるような、科目配置と研究体制を整備しています。

薬学専攻博士課程の人材育成目的

薬学専攻博士課程は、薬学の専門的知識および研究力を備え、使命感および倫理観を有する高度な薬剤師、医療人または研究者として、地域や社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。

薬科学専攻

創薬分野の研究を深め、新薬の発見・創製につなげる研究者を養成

2
年
制

薬科学専攻博士課程前期課程

多岐にわたる医薬品創製のプロセスを5つの分野(薬品分子創製化学、生体分子解析学、薬物動態解析学、生体機能薬学、薬物作用解析学)に分類し、専門分野に応じた基盤的な知識および先端的な研究技術が取得できる教育・研究体制を整備しています。

薬科学専攻博士課程前期課程の人材育成目的

薬科学専攻博士課程前期課程は、薬科学の専門知識および研究力を備え、研究機関、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を育成することを目的とする。



3
年
制

薬科学専攻博士課程後期課程

高度な専門知識と研究に必要な一連の能力を取得できる教育・研究体制を整備しています。

薬科学専攻博士課程後期課程の人材育成目的

薬科学専攻博士課程後期課程は、高度な薬科学の専門知識および優れた研究力を備え、研究機関、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を育成することを目的とする。



修了要件

薬学専攻博士課程

4年間(標準修業年限)以上在学するとともに、専門科目で14単位以上、特別研究科目から16単位修得し、学位審査を経て博士学位の授与をもって修了したものとします。

薬科学専攻博士課程前期課程

2年間(標準修業年限)以上在学するとともに、専門科目より、14単位以上、「演習(8単位)」および「特別実験(8単位)」を修得し、学位審査を経て修士学位の授与をもって修了したものとします。

薬科学専攻博士課程後期課程

3年間(標準修業年限)以上在学するとともに、「特別研究I~VI」を含む12単位以上を修得し、学位審査を経て博士学位の授与をもって修了したものとします。

※詳細は薬学研究科ウェブサイトでご確認ください。



過去の博士論文

「立命館学術成果リポジトリ」で閲覧できます。





立命館大学大学院 経営学研究科では、これまでの経営学の体系的な学びを深めることに加え、「これからの経営学の可能性」を追究しています。そのために、世界・日本の学術・研究をリードする教授陣と実践的なプログラムを用意しています。あなたの将来の可能性をさらにここで伸ばしてみませんか？



博士課程前期課程

前期課程では、「技術経営・戦略」「組織・人事」「マーケティング」「国際ビジネス」「会計学」「ファイナンス」「デザイン・マネジメント」などの分野で、これからの企業経営の展開を視野に先進的で多面的な教育を行っています。

経営学に関する高度な専門知識および、会計や統計の処理、語学などに関する高度な技能をもち、組織の中で適切に知識と技能を活用できる人材を育成します。併せて、社会の要請に応え、正義と倫理をもち、グローバル化する社会の中で組織のリーダーシップを発揮しうる人間を育成します。

時代は未来の「あるべき社会」を創造し、それらを実現する力をもったマネジメント人材を求めています。経営学研究科は、経営学の専門知識修得を中心しつつ、幅広い学際的素養を身につける多様な学びと能動的な研究姿勢を支援する大学院教学を展開しています。

前期課程での学修の進め方

前期課程での学修は修士論文の作成が集大成となりますが、経営学研究科では2回生から修士論文指導が始まるカリキュラムとなっています。1回生時は「基幹科目」「展開科目」の履修により経営学に関する理論の修得や、「研究方法科目」の履修による情報収集・分析手法の獲得など総合的な学力を身につけることが重要です。併せて、外国文献研究または英語開講科目を受講することにより、英語文献レビューと英語での学修を進めます。研究指導教員は各自の研究テーマにもとづく調整によって、1回生春学期中に決定します。「研究展開科目」を研究指導教員の指導のもと各自の研究テーマに沿って、1回生秋学期に履修します。2回生では、1回生時に修得した専門知識をもとに、修士論文の執筆が本格化します。春学期には中間報告会にて研究経過を報告し、2回生秋学期に研究成果を修士論文として仕上げます。

博士課程後期課程

後期課程では、指導教員のもと、前期課程における研究を継続して研究論文を執筆し、学会誌への掲載や、学会での報告などによって深化させ、高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を継続できる自立した研究者を育成します。

主な開講科目一覧 前期課程

科目群	科目名	単位数	科目群	科目名	単位数
基 幹 科 目	経営史Ⅰ(アジア・日本)	2	研究 方 法 科 目	統計学Ⅰ	2
	競争戦略	2		統計学Ⅱ	2
	マーケティング	2		研究方法論	2
	生産マネジメント	2		外国文献研究Ⅰ～Ⅳ	各1
	組織科学	2		アカデミックライティング	2
	経営財務	2	英 語 開 講 科 目	International Business Ⅰ	2
	会計学	2		International Business Ⅱ	2
	ビジネス・エコノミクス	2		Finance	2
展 開 科 目	アントレプレナーシップ	2		Marketing	2
	金融・証券	2		International HRM	2
	経営史Ⅱ(欧米)	2		Environmental Management	2
	ビジネス倫理	2		Business Economics	2
	人的資源管理	2		Special Lecture ^{※1}	2
	財務会計	2	キャリア開発科目	大学院コーオペ演習	2
	企業会計	2		インターンシップ演習	2
研究 展 開 科 目	技術経営・戦略研究	2		海外インターンシップ	2
	マーケティング研究	2	特 殊 講 義	特殊講義Ⅰ～Ⅹ ^{※2}	各2
	組織・人事研究	2	研究 指 導 科 目	特別演習Ⅰ	2
	国際ビジネス研究	2		特別演習Ⅱ	2
	会計学研究	2			
	ファイナンス研究	2			
	デザイン・マネジメント研究	2			

※1「Introduction to International Management」、「Merger and Acquisitions in the frame of International Business」など種々な内容で開講

※2「計量経済学入門」、「質的調査法」、「量的調査法」など種々な内容で開講

過去の論文タイトル一例

- 博士課程前期課程** 「コンテンツ産業における競争優位の再構築とイノベーション：ネットフリックスを事例として」
「従業員満足度に影響を与えるインターナル・マーケティング・ミックスの特定～既存尺度の再検討を通じて～」
「コーポレート・ガバナンスが日本企業のコストの下方硬直性に与える影響」
- 博士課程後期課程** 「デスティネーション・マネジメントの理論的再検討－地域再生の核となるツーリズムの展開を巡って－」
「プロフェッショナルとしてのデザイナーの持つデザイン態度 (Design Attitude) の探索的研究」



現代社会が直面する政策課題の理解と適切な解決策の創造に関する研究能力を育成する

政策科学研究科目

公共政策関連科目

政策形成過程への視野を修得する科目が配置されています。政策過程は合意の形成過程であり、政策・施策の「社会的合理性」がこの科目群の主題となります。政治過程論、行政学、公共哲学、法政学を中心とする科目が配置されています。

環境開発関連科目

政策・施策の「科学的合理性」がとりわけ重要な意味をもつのは、環境・開発・都市の領域です。この科目群には、環境科学・都市工学・計画理論を中心とする科目が配置されています。

社会マネジメント関連科目

「市場的合理性」（効率性と組織マネジメント）は、営利企業はもちろんのこと、公共機関・非営利組織の課題を解決するための重要な視点です。この科目群には、経済学・経営学・社会学の知見を広く社会の諸部門の問題解決に連接させるための科目が配置されています。

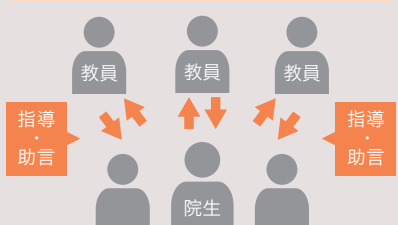
共通科目

学知の総合としての政策科学の基礎を修得する科目、研究領域や研究課題を問わず必要とされるスキルを修得するための科目が配置されています。新しい学問分野である政策科学の基礎理論、基本的な分析手法を修得することができます。

政策課題に応じたプロジェクト型の研究指導体制

政策科学研究科は、領域横断的な教員の共同研究チームを組織し、それぞれのチームによる共同研究プロセスに院生が参加するプロジェクト型研究指導（PBL）の方法を採用しています。リサーチ・プロジェクトでは、一人の指導教員が一つの専門領域に特化した研究指導を行うのではなく、領域・テーマに共通の関心を持ちながらも、それぞれ異なった学問的背景を持つ複数の教員が院生の研究指導を行う集団的指導の方法を採用しています。

プロジェクト型研究指導（複数指導）



政策科学研究科の指導体制

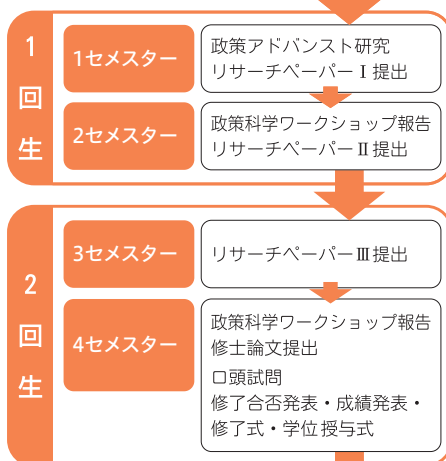
1対1



一般的な指導体制

研究指導フローチャート

政策科学研究科博士課程前期課程入学



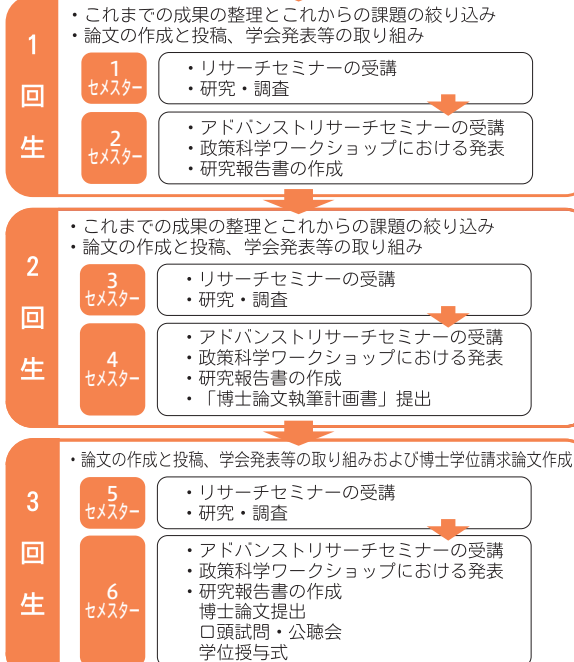
修了要件

- 合計で30単位以上修得
- 「リサーチ・プロジェクトⅠA」「リサーチ・プロジェクトⅡA」「リサーチ・プロジェクトⅢA」「リサーチ・プロジェクトⅣA」の中から、「リサーチ・プロジェクトⅣA」を含む3科目6単位以上修得
- 政策科学ワークショップにおける口頭報告
- リサーチ・プロジェクトⅣAの修了審査および口頭試問に合格

政策科学研究科博士課程前期課程修了



政策科学研究科博士課程後期課程入学



政策科学研究科博士課程後期課程修了

過去の修士論文／博士論文タイトルの例

<博士課程前期課程>

◇Silver democracy in Osaka Metropolis Plan Referendum - An Examination of the Theory ◇冷戦後のトランスナショナル・ネットワークと民族紛争 - コソボ紛争を事例として ◇公的資金の地域経済への影響に関する研究 - 長野県飯田下伊那地区を事例に ◇二酸化炭素吸収促進に寄与する森林施策の評価 ◇アニメ作品の「聖地巡礼」を通じた中国人観光客の誘致策に関する研究 ◇Conflict Resolution over Coastal Resources : A Case Study of Mining, Fisheries, and Tourism in Bangka Belitung Province, Indonesia

<博士課程後期課程>

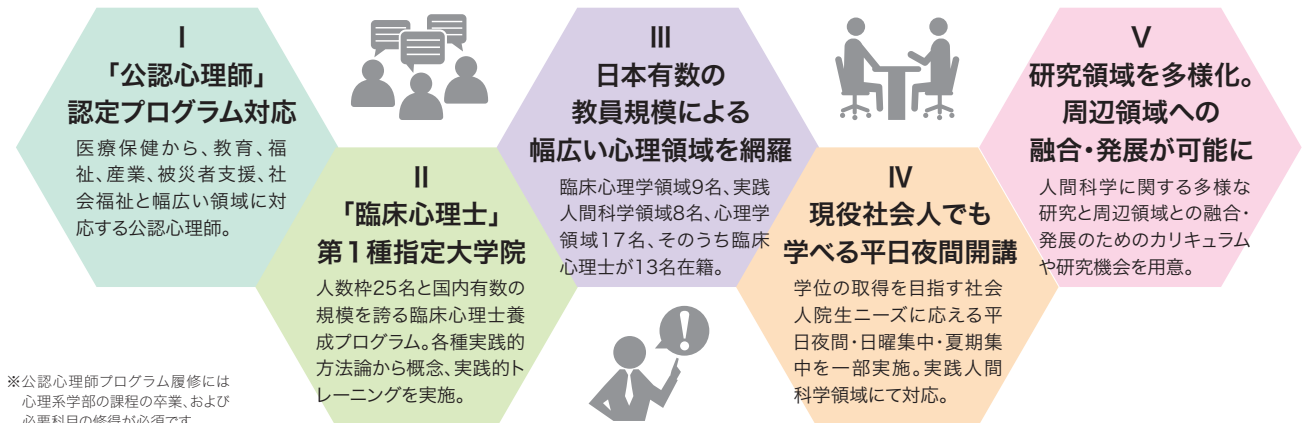
◇A Study on Conventional Motorcycle Taxi's Demand in the Urban Fringes of Outer Metropolitan Area: Case Study in West Java, Indonesia (大都市圏外縁部における在来型バイクタクシー需要に関する研究: インドネシア・西ジャワ州を事例として) ◇The Analysis of Government Spending on Education: Theory and Empirical Evidence from the Districts in Indonesia (政府の教育支出に関する分析: 理論とインドネシアの県レベルデータから見る実証的証拠) ◇韓国政府による在日コリアンの包摂と排除 - 季承晩政権期を中心に - ◇大震災を想定した集中型観光客への公助対応フレームワーク(PSDRフレームワーク)による避難帰宅政策に関する研究 - 世界遺産姫路城を事例として -



2022年度から新たなカリキュラムにより、実践人間科学領域を新設

2022年度からの新カリキュラム始動により、従来の「対人援助学領域」に代わり、新たに「実践人間科学領域」を設置しました。コミュニティの共創をコンセプトに、心理学を中核に置いた研究科の社会的貢献の場として、実践と研究の往還を通じて、ヒューマン・コミュニティ創成へとつなぐ総合的な地域・社会貢献を目指します。その実践として、心理社会的課題の解決に向けたPBL探求型履修モデルを展開します。主に、多様性社会(ダイバーシティ)の選択、ライフコース形成とケア、社会的イノベーションなどの科目や、学外連携実習科目での学びを通じて課題を発見し、それをカンファレンス科目の場で複数教員とともに検討する場となります。

研究科の5つの特徴



研究指導

学部からのストレート進学院生や留学生、社会人院生などの幅広い院生受入れを行うため、研究指導の現場においても相互の関わり合いを持ちながら、研究を推進します。他領域の院生や教員との研究交流や意見をもらう場として、春期と秋期に数回「アライアンス」という制度を設けています。13のトピックでグループ化された教員と院生のグループで発表することで、日頃の指導教員からのアドバイス以外の意見を聞き、研究の幅を広げる機会とします。

施設紹介



動物行動実験室



光トポグラフィ装置



シールドルーム



プレイルーム

プログラム

博士課程前期課程

共通科目 社会のなかの人間科学 人間科学特論 心理学統計法 心理学研究法 質的研究法

演習科目 演習ⅠⅡⅢⅣ

領域専門科目

心理学領域

基礎心理学特論 認知心理学特論
教育心理学特論 発達心理学特論
社会心理学特論 家族心理学特論
司法・犯罪心理学特論
産業・組織心理学特論
教育評価・心理査定特論
老年心理学特論 健康心理学特論
生徒指導・進路指導特論
教授・学習学特論 臨床心理学研究

臨床心理学領域

臨床心理学特論ⅠⅡ 心理療法特論
臨床心理査定演習ⅠⅡ 社会病理学特論
臨床心理面接特論ⅠⅡ
グループアプローチ 精神医学特論
臨床心理学基礎実習 臨床心理学実習

実践人間科学領域

コミュニティ心理研究 ナラティブとケア
学校カウンセリング研究 障害児教育研究
実践人間科学特論 ソーシャルワーク研究
司法臨床研究 ユースワーク研究
臨床心理地域援助研究 対人援助技術研究
認知行動療法研究 学外実習
インターンシップ 心理プラスCom(PBL)

公認心理師科目 心理実践実習ⅠⅡ 公認心理師カンファレンスⅠⅡ 公認心理師学外実習ⅠⅡ

博士課程後期課程

人間科学シンポジオンⅠⅡⅢ 人間科学プロジェクト演習ⅠⅡⅢⅣⅤⅥ



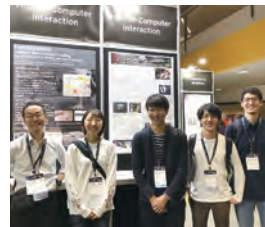
プロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成

映像文化への横断的思考の涵養

近年の多様化する映像文化・映像産業をめぐる状況の中では、映像に関するジェネラリスト的な素養と領域・分野に応じた高い能力が求められます。そのため、映像研究科ではプロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成を目標とし、他には見られない特徴的な学びを展開しています。

映像研究科の特徴

- ・立命館大学という総合大学において、多岐化・多様化を続ける映像世界を包括的・構造的に測定する能力、複眼的あるいは柔軟に考察する能力の涵養
- ・一分野に特化し狭い範囲で専門的技術習得者を養成するのではなく、多面的な視点を携え、専門性が高くかつ汎用性もある知識、技能、技術、方法論を持ち、変化の激しい映像文化に弾力的な対応ができる能力の育成
- ・社会の求める課題に対する発見や調査を踏まえた研究・制作・開発の実践
- ・5つのサブジェクト・ゾーンからなる分野横断的な学び
- ・1名の研究科生に対して、2名以上の教員による丁寧な指導体制



サブジェクト・ゾーン

映像研究科では、5つのサブジェクト・ゾーンの学びの中で、学修経路を自覚しながら、複合的な映像の領域において幅広い視野と専門性の高い理解と技術を身につけることができます。

映画芸術 Film Arts

実写映画とCGアニメーションを表現手段とし、作品の制作とそれに関連する理論や歴史について学修するゾーン

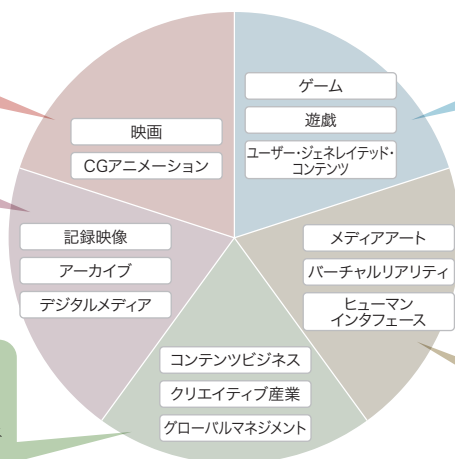
社会映像 Society and Images

映像が浸透し、メディア環境が転換期を迎えている現代社会はもちろん過去や未来の社会とのかかわりの中で映像の価値や意味を問い、社会の中で、社会を対象として、社会のために、映像を制作・研究するゾーン

映像マネジメント

Content Business Management

京都映像文化の起源から現在の映像産業までを射程に、ビジネスから社会、国際貢献までを視野に入れた専門知識を学ぶゾーン



ゲーム・エンターテインメント Game Entertainment

京都のインディーゲームシーンやゲーム産業と連携しつつ、ハード・ソフト・サービスを対象とした、先端的なエンターテインメント創造に関する知見・技法を習得するゾーン

クリエイティブ・テクノロジー Creative Technology

メディアテクノロジーを基盤とした視聴覚情報の伝達と受容に関する先端的知識や技能を学修するとともに、そうした知見に基づくメディア表現の創造や開発について研究を行うゾーン

テーマ・プロジェクト型制作・研究とディシプリン・リサーチ型学修の融合

- ・映像学部素地のある学生が早期から研究活動の実質化に注力でき、基礎的な知識・教養の補強が必要な学生はその獲得を集中的な機会を得られる導入・基幹科目を配置
- ・授業科目群の複合的な結合が特徴

「テーマ・プロジェクト型」授業科目群 → 自ら課題を見出して制作あるいは研究に結実させていく
→ 「映像研究演習」「映像研究キャリア演習」など映像関連分野の制作・研究にとって背景となる知識を獲得する授業科目を配置し、「プロジェクト演習」で修士論文・制作に向けた準備を進める

「ディシプリン・リサーチ型」授業科目群 → 講義・実習形式により、映像に関わる諸分野の研究に必要な知識・分析法・技能・技術を習得

研究指導システム

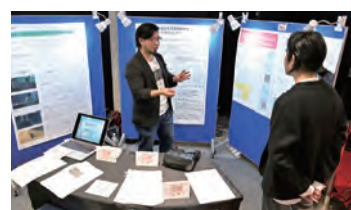
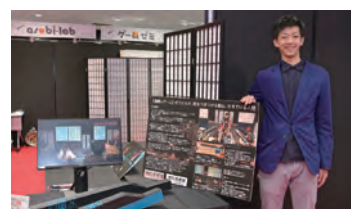
修士論文もしくは修士制作・解説論文の完成に向けて**院生1名に対し、教員2名以上による複数指導体制を確立しています。**

過去の修士論文・制作 タイトル一例

◇遠隔授業における3Dアバタと相槌の強調表現を用いた意思表示インタフェース ◇個人のホラーゲーム制作におけるインドアレベルデザインの効率化～MDAを用いたゲーム演出に関する検証型研究～ ◇HaptoBOX:ミクスリアリティ体験をフィジカルに増強するユーザーインタフェースデバイスの研究 ◇ドキュメンタリー映画『登場』の制作とその表現方法

主な進路・就職先

松竹(株)、(株)カプコン、(株)DeNA、(株)日経映像、(株)南日本放送、(株)ライゾマティクス、(株)デジタル・メディア・ラボ、(株)エスバ、(株)ウェルツアニメーションスタジオ、(株)セガ・インタラクティブ、ソニーPCL(株)、(株)クレッセント、(株)コナミデジタルエンタテインメント、東映ソークン研究所、他大学大学院後期課程進学 ほか





MASTER 博士課程前期課程

情報理工学専攻

計算機科学コース

計算機科学コースでは、計算機アーキテクチャやソフトウェア技術、情報ネットワーク技術を中心にヒューマンインタフェースや認知工学といった分野の教育研究を行います。

人間情報科学コース

人間情報科学コースでは、言語・音声・画像などのメディア処理技術やバーチャルリアリティ、知能システムや人間工学、知能ロボティクスといった分野の教育研究を行います。

博士課程前期課程
情報理工学専攻

計算機科学コース
人間情報科学コース

博士課程後期課程
情報理工学専攻

DOCTOR 博士課程後期課程

情報理工学専攻

情報理工学専攻では、研究科に相応しい高度な専門的実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携や国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。



修了要件とカリキュラム

前期課程

科目分野	必要単位数
共通科目	4単位以上
固有専門科目	10単位以上
特殊研究科目	16単位
自由科目	—
合計	30単位以上

「グローバル科目」を2単位以上修得すること

後期課程

科目分野	必要単位数
特別研究科目	8単位以上
実習・演習科目	—
自由科目	—
合計	8単位以上



固有専門科目・特殊研究科目（前期課程）

科目区分	計算機科学コース	人間情報科学コース
固有専門科目	Webインテリジェンス特論	Webインテリジェンス特論
	言語メディア特論	音声・音響メディア特論
	システムプログラム特論	言語メディア特論
	情報セキュリティ特論	システム制御特論
	ソフトウェア工学特論	生体情報処理特論
	知能機械特論	知能機械特論
	分散システム特論	脳機能情報処理特論
	マルチエージェントシステム特論	ビジュアルコンピューティング特論
	ワイヤレスネットワーク特論	ヒューマンインタフェース特論
	組込みシステム特論	Advanced Topics in Computational Intelligence in Games ★
	Advanced Topics in Communication Science ★	Advanced Topics in Image Processing ★
	Advanced Topics in Global Software Engineering ★	Advanced Topics in Knowledge-based Systems ★
	Advanced Topics in Computer Science ★	Advanced Topics in Human Factors for System Engineering ★
	Advanced Topics in Human Factors for System Engineering ★	Special Topics ★
	Special Topics ★	特殊講義
特殊研究科目	特殊講義	データサイエンス特論
	データサイエンス特論	データサイエンス特論演習
	データサイエンス特論演習	ヘルスケアシステム開発
	ヘルスケアシステム開発	ヘルスケアシステム開発演習
	ヘルスケアシステム開発演習	機械学習特論
自由科目	機械学習特論	機械学習特論演習
	機械学習特論演習	
特殊研究科目	情報理工学特殊研究 1～4	情報理工学特殊研究 1～4
自由科目	技術者実践英語特論	技術者実践英語特論

特別研究科目（後期課程）

情報理工学特別研究 1～6

★ 印は英語で開講する科目です。

数字で見る就職実績

研究科修了者の就職実績を学部卒業者と比較してみると、就職決定率だけでなく、就職先の規模においても有利であることがわかります。また職種別で比較すると、研究職や高度専門職に就く可能性が圧倒的に高まります。

	学部	研究科
就職決定率（就職決定者／就職希望者）	93.2%	99.3%
巨大企業・大企業への決定率 （資本金規模別） ※巨大企業：資本金10億円以上 大企業：資本金1億円以上10億円未満	52.4%	64.1%
技術専門職	21%	25%
研究・設計・開発職	3%	8%

※外国人留学生を除く

グローバル人材の育成

海外IT研修プログラム

国際社会を舞台に活躍できる人材育成を目標に掲げている当研究科では、一定の英語運用能力を有する学生を対象に、夏期・春期休暇期間を利用した海外IT研修プログラムを展開。日常生活から学びに至るまですべてを英語で行うトータル・イマージョン・スタイルを採用し、より高いレベルの英語運用能力・異文化適応能力を養います。

海外インターンシップ・プログラム

海外でのインターンシップ（ベトナム・インド・中国・アメリカ）を通じて自己理解を深め、将来の進路選択として確かな職業観を身につけることを目指しています。日系IT企業や現地IT企業でIT知識を活用することによって専門性を更に深めることが期待できます。



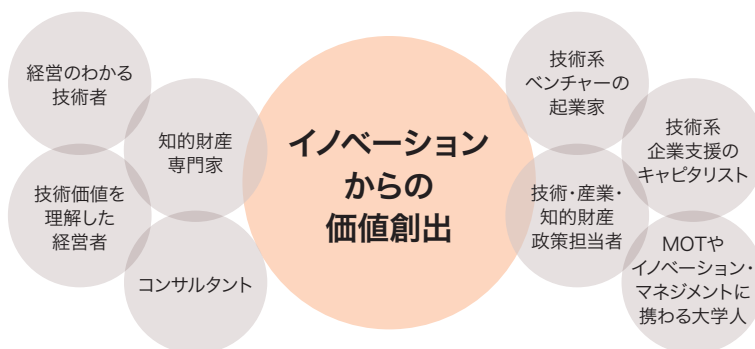


技術経営 (MOT: Management of Technology) について

技術経営 (MOT: Management of Technology) とは、技術を基盤とするとともにこれを活用する企業の経営のことです。したがって、技術経営学の対象は自動車産業やエレクトロニクス産業などの製造業はもとより、電気通信、コンサルティングや金融を始めとするサービス業など、あらゆる業種に及んでいます。

MOTの実践事例

- 不確実性のマネジメント ● イノベーション・マネジメント
- 技術投資に関わる事業評価 ● 研究開発戦略の立案
- 技術を核とした新事業の創出 ● MOT人材マネジメント
- 技術マーケティング
- 技術戦略、事業戦略および知財戦略の統合



テクノロジー・マネジメント研究科の特長

1. 専門職大学院ではなく研究型大学院である

技術基盤企業の組織やマーケティング、戦略経営、知的財産などに加えて技術戦略、製品開発戦略など技術経営にかかわる主要な分野を網羅したカリキュラム。専門職大学院ではなく一般の大学院として、研究を重視しながらも高度の専門知識を持つ人材の輩出を目指しています。さらに、グローバルな活躍を目指す専門的研究者を育成するために博士課程後期課程を設置しています。

2. 理論と実践を学べる

専任教員のほとんどが博士学位取得者かつ実務経験者なので、理論と実践の両方を高いレベルで学ぶことができます。また、多くの企業と提携し、それぞれの企業が抱える課題を学生が解決する課題解決型長期企業実習「プラクティカム」や、企業からの受託研究・共同研究などを通して、現実のビジネス現場で発生している課題を検討し、実践的に解決できる人材の育成に努めています。

3. 多彩なバックグラウンドを持つ学生

学部からの進学者、留学生、現役の社会人、企業等をご退職された方など、学生のバックグラウンドは多様。理学や工学系の学生は科学技術の知識をさらに生かすべく、文理の枠を超えて、イノベーションからの価値創出とあわせて、技術にかかわる事業経営についての理論や手法などを学ぶことができます。多彩なバックグラウンドを持つ学生同士の交流が多くの気づきをもたらします。

カリキュラム紹介 [2025年度(予定)]

〈博士課程前期課程〉

基礎科目	技術経営論Ⅰ 技術経営論Ⅱ
コア科目	技術基盤企業の経営戦略 技術基盤企業のマーケティング 技術基盤企業の財務会計 技術基盤企業のファイナンス 技術基盤企業の経営組織論 技術基盤企業の人的資源管理 技術基盤企業のITマネジメント 技術基盤企業のプロジェクトマネジメント 技術基盤企業のリスクマネジメント 意思決定論 データアナリティクス概論 研究デザイン論 MOTデザインプロジェクト
プログラム科目	Technology Management Basics Advanced MOT Academic English プラクティカムⅠ プラクティカムⅡ

展開科目	価値創出マネジメント イノベーション戦略論 サービスイノベーション 知的財産戦略論 知的財産権法概論 ブランドデザイン戦略 研究開発戦略 製品開発論 ヘルスケア・マネジメント バリューチェーンマネジメント 価値・経済性工学 生産イノベーションマネジメント アントレプレナーシップ モデルベースビジネス設計 新規事業創造論 企業価値創造論 デザイン思考とアート思考 未来デザイン方法論 未来予測とシミュレーション 研究開発人材のキャリアデザイン論 特殊講義
------	---

研究指導科目	技術経営演習Ⅰ 技術経営演習Ⅱ 技術経営研究Ⅰ 技術経営研究Ⅱ
--------	--

〈博士課程後期課程〉

研究指導科目	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ 特別研究Ⅴ 特別研究Ⅵ
--------	--

理論と実践の橋渡し

■実務経験を持たない学生

「プラクティカム(課題解決型長期企業実習)」企業の現場の課題(事業計画、マーケティング、知的財産など)について、学生が指導教員と共に課題解決を行います。概ね3〜6ヶ月間で研究成果を出し、実習先に報告と提案を行います。
(これまでの協力先)パナソニック コネクト株式会社など約30社

■社会人学生

勤務先の業務課題を論文のテーマにできます。博士課程前期課程については、業務情報を開示することに問題がある場合は、学位論文の内容を非公表にすることも可能です。

多様な研究分野と学位論文テーマ — 過去の修士論文・博士論文テーマ例 —

◇技術の期待度を用いた製品普及モデルの構築—ウェアラブルデバイスの市場規模予測— ◇360度全方位動画向けバーチャルリアリティシステムのコンセプト設計と評価 ◇医療機関におけるトヨタ生産方式導入の促進・阻害要因の調査 ◇映像広告における聴感上の知覚変化と支払意思額への影響の検討 ◇リーダーシップ形式がオープンイノベーションに及ぼす影響と相関性の分析 ◇宇宙技術スピノフによる製品開発の成功要因 ◇民間航空機開発プロジェクトにおける遅延メカニズムの研究 ◇サポートベクター回帰を用いた特許分析 ◇電子デバイス事業における後発優位のメカニズム —イノベーションダイナミクスの与える影響— ◇バイオ医薬の創世期における組織間連携の時系列分析—連携の目的とタイミングにおける日本と海外の違い— ◇ノウハウ保護のための特許制度と方法の発明の保護戦略—先使用権の法的解釈と方法の発明の保護戦略マトリクスの提案—



経営管理研究科(通称「立命館大学ビジネススクール=RBS」)は、専門職大学院としてMBA教育を提供しています。MBAの目的は、経営学の研究者を養成することではなく、未来を切り拓く次世代のビジネスリーダーを育成することにあります。RBSは、「ビジネスの創造」を掲げ、新たなビジネスアイデアや価値を生み出すための能力を身につけることを重視しています。授業方法には、レクチャーに加え、ケース教材を使用したディスカッションやグループワークが積極的に取り入れられています。また、ビジネス界との連携を通じ、最先端のビジネスに触れる機会が数多くあります。実務の一線で活躍する教員からは、実践的な知識やスキルを学びます。こうして、学生は、理論と実践の間を行き来しながら、思考力や創造力を磨いていきます。

経営管理専攻

ビジネスを創造するリーダーとして求められる能力を身につけるために、「新しい何か」を創る創造性を磨きます。

- マネジメントプログラム
 - ・ビジネスパーソン対象
 - ・大阪梅田キャンパス開講
- キャリア形成プログラム
 - ・学部卒業生(留学生含む)対象
 - ・大阪いばらきキャンパス開講

RBS

立命館大学
ビジネススクール

観光マネジメント専攻

観光産業の企業・団体等でビジネスを創造するリーダーとして求められる能力を身につけます。

- 観光事業マネジメントプログラム
 - ・ビジネスパーソン対象
 - ・大阪梅田キャンパス開講(オンライン受講可)
- 観光事業キャリア形成プログラム
 - ・学部卒業生(留学生含む)対象
 - ・大阪いばらきキャンパス開講



特色ある学び(演習科目)

課題研究(経営管理専攻)

それぞれの課題やテーマにフォーカスし、解決に向けた知的探求を行う演習科目が課題研究(ゼミ)です。RBSでの学びを通じて得た知識やスキル・能力、さらには自身のもつ創造性をフルに動員して、新事業・新製品開発に向けてのプラン策定、自社の第二の創業、業界への提言などに取り組みます。

リサーチプロジェクト(観光マネジメント専攻)

各自の研究課題やテーマについて調査・研究を行う演習科目がリサーチプロジェクト(ゼミ)です。観光産業における企業・団体等の経営、あるいは観光事業に関する課題を明らかにし、それをどう解決すべきかをレポートにまとめ、ビジネスの世界で直面する諸課題を創造的に解決する力を身につけていきます。

主な就職先 (経営管理専攻)

アクセンチュア株式会社/アビームコンサルティング株式会社/国税専門官/株式会社セガ/
株式会社大和総研/日本アイ・ピー・エム株式会社/株式会社博報堂/株式会社ポーラ/
株式会社みずほ銀行/パナソニック インダストリー株式会社/TDK株式会社 など



コースの紹介

市民的な感覚を備えながら、地球的な規模で考え行動する「地球市民法曹」の養成を目指します。

法学未修者コース(3年制)

法学既修者コース(2年制)

※各コースは入学試験時の入試方式(受験科目)で判断されます。出身学部・学科とは関係ありません。

カリキュラムの特徴

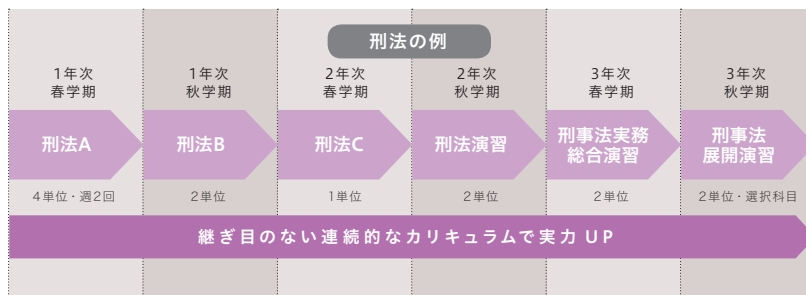
基本的な力を確実に身につけ、国際舞台でも地域社会でも活躍できる法曹を育成する充実のカリキュラム。

司法試験突破へ専念できるカリキュラム構成

法科大学院修了直前の3年次秋学期(既修者コースは2年次秋学期)は、最後の総仕上げで一番大切な時期。必修科目は配置されていないため、「民法展開演習」「刑事法展開演習」などの選択科目を受講し、自らの学習の進み具合に応じた学習ができます。

密度の高いカリキュラム

法曹となるための基本的な力を身につける「法律基本科目」では、主要3科目(憲法・民法・刑法)が1年次春学期から3年次春学期まで全セメスターに配置されています(未修者コースの場合)。更に選択科目を新たに設け、民法・刑法は3年次秋学期まで継続して受講できます。本研究科のカリキュラムは、既修者コース・未修者コースとも着実に実力をつけることができる構成になっています。



多様なニーズに応える潤沢な選択科目

司法試験選択科目に備えるだけでなく、法曹として将来の専門性を高めていくため、特に重要な8分野で各8単位分の授業を用意しています。断片的で自学自習に頼りがちなこれらの分野で、手厚いサポートを受けて学習することが可能です。

司法試験選択科目に対応する科目

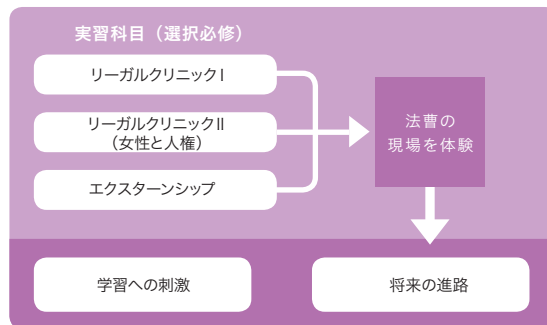
- 環境法
- 経済法
- 租税法
- 労働法
- 倒産法
- 知的財産法
- 国際関係法(私法系)
- 国際関係法(公法系)

原則、講義4単位と演習4単位で構成、いずれの科目も8単位分の授業を確保

法実務の現場を必ず体験(実習科目)

法曹として実際に活躍する現場を早い段階で体験することは、学習を進める上で大きな刺激になるばかりか、将来の進路希望を考える際にも非常に参考になります。また、実習を通じて実務家との人脈づくりにもつながります。

教員(弁護士)と共同で実際の法律相談を受け付ける「リーガルクリニックI」、女性や人権問題を専門に扱う「リーガルクリニックII(女性と人権)」、弁護士事務所・企業法務部・地方公共団体での研修「エクスターンシップ」を用意しています。このうち一つを必ず履修します。



苦手意識をもつ方が多い「訴訟法」分野を大幅強化

法務研究科のカリキュラムでは、苦手な方も多い「民事訴訟法」「刑事訴訟法」の学習を一層強化しています。「民事訴訟実務の基礎」「刑事訴訟実務の基礎」を開設し、それぞれ裁判官教員と検察官教員・弁護士教員が担当します。現職の実務家が担当することで、リアルな実務の流れに触れながら理解を深めることができます。また、学習が進んでいる方を対象に入学前に「履修免除試験(民事訴訟法・刑事訴訟法)」を実施します。

そのほか、「行政法」についても、「行政法演習I」「行政法演習II」を設置し、法科大学院入学後に確実に力がつくようにします。これに併せて入学試験では「行政法」試験を廃止しています。

充実した給付奨学金

法学未修者
コース合格者にも
S奨学金あり!

金額

S奨学金

年間授業料×2年連続給付*

A奨学金

年間授業料×1年間

B奨学金

60万円×1年間

*原級留置(留年)等にならない限り、2年目の給付が約束されています。

期間

未修:最長3年間 既修:最長2年間

S奨学金・A奨学金・B奨学金給付後は、全学生を対象に前年度の成績により毎年成績優秀者に奨学金を給付します。



教職研究科とは

学校現場は、いじめや不登校などの複雑化・深刻化する教育課題への対応、「主体的・対話的で深い学び」を実現する新しい発想での授業の実施、グローバル化課題への対応など急速な変化の中にあります。このような状況で教員にはより一層の高い指導力、実践力が求められており、その力を高めていくのが今後の教員養成・現職研修の中核を担うとされている教職研究科(教職大学院)です。

教職研究科(教職大学院)は、急速に変化する社会の中で、新しく求められる高度な教育実践を行い、学校現場の課題に柔軟に対応できるよう、教員としての総合的な力を身につけるための専門職大学院です。

これまでに法学部、産業社会学部、国際関係学部、文学部、映像学部、経済学部、理工学部、情報理工学部、生命科学部、スポーツ健康科学部と様々な学部から教職研究科に進学しています。他大学出身者、公立学校や本学附属校の現職教員なども進学しており、多様なバックグラウンドをもつ院生同士の学び合いによって、教員としての力を高めていくことができます。



立命館大学大学院教職研究科の特長

教職研究科では、「理論と実践の融合・往還」をキーワードにしています。長期実習や授業内でのフィールドワークを通して、理論の実践化と実践の理論化をはかる学修が展開されます。本学教職研究科は京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市の5教育委員会と連携しており、多彩な学校での実習やフィールドワークを経験することができます。

また、小学校、中学校、高等学校のどの学校種にも対応するカリキュラムを用意しています。さらに、「臨床教育」、「教育方法・学習科学」、「国際教育」の3コースを設定しており、入学後にいずれかのコースを選択し分野ごとの専門性を深めることができます。

科目例

科目区分		科目名
共通基本科目		カリキュラムデザインの理論と方法 教育方法・学習科学の理論と実践 臨床教育の理論と方法 学校マネジメントの理論と実践 現代の学校・教師と教育実践 国際教育の理論と方法 など
専門実習科目		教職専門研修1～4
コース科目	コース共通科目	学校内外の連携による児童生徒支援 学校におけるICT活用 など
	コース必修科目	
	臨床教育	SEL(社会性と情動の学習)の 実践的アプローチの現状と課題 など
	教育方法・学習科学	教科横断型授業の実践と課題 など
	国際教育	開発教育プロジェクトの実践と課題 など

教職研究科で取得可能な専修免許状

小学校教諭専修免許状

中学校教諭専修免許状

(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、
技術、家庭、英語、宗教)

高等学校教諭専修免許状

(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、
書道、保健体育、家庭、情報、工業、商業、福祉、
英語、宗教)

＊専修免許状の取得には、一種免許状を取得していることが条件となります。

現職教員への支援～働きながらの学びをサポート～

長期履修制度 一時間割の工夫とオンライン受講一

職業を有することにより、標準修業年限(2年)を超えて計画的に教育課程を履修することができる制度で、2年間の学費で3年または4年間で学ぶことができます。

長期履修制度を活用する現職教員院生のために、3年間で科目がローテーションし、3年に一度は必ず夜間時間帯に科目が開講される工夫をしています。長期履修制度活用者は、夜間時間帯の授業をオンラインで受講可能です(一部科目でのスクーリング含む)。またオンライン受講の方限定で図書館の図書を郵送貸出するサービスも実施しています。

「教職専門研修」の特例

一定期間の実務経験がある現職教員については、本人の申請と研究科での審査を経て、「教職専門研修」の一部の履修が免除されます。

利用しやすい学修環境

朱雀キャンパスは交通の便もよく、また「リサーチライブラリー」(図書館)は、日曜も9時から22時まで開館(大学の休暇期間を除く)、「院生自習室」や「教職研究科共同研究室」などの学修スペースも夜間時間帯まで利用できます。

学部新卒者への支援～学びながら働ける仕組み～

教職大学院に在学する大学院生(学部新卒院生)が、大学院で学びながら公立学校の非常勤講師や立命館附属校の教職大学院生講師として勤務し、収入を得ながら教師としてのキャリアを積むことができる仕組みを用意しています。

お問い合わせ先

■入学後のカリキュラム、研究内容、指導教員、出願書類に関するお問い合わせは…

研究科	事務局	連絡先	
法学研究科	法学部・法学研究科事務局	075-465-8175	law@st.ritsumei.ac.jp
社会学研究科	産業社会学部・社会学研究科事務局	075-465-8184	shaken1@st.ritsumei.ac.jp
国際関係研究科	国際関係学部・国際関係研究科事務局	075-465-1211	ir-adm@st.ritsumei.ac.jp
文学研究科	文学部・文学研究科事務局	075-465-8187	letters@st.ritsumei.ac.jp
言語教育情報研究科	衣笠独立研究科事務局	075-465-8363	doku-ken@st.ritsumei.ac.jp
先端総合学術研究科		075-465-8348	
経済学研究科	経済学部・経済学研究科事務局	077-561-3940	gs-ec@st.ritsumei.ac.jp
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科事務局	077-561-3760	spoken3@st.ritsumei.ac.jp
食マネジメント研究科	食マネジメント学部・食マネジメント研究科事務局	077-561-4801	gs-rmbk@st.ritsumei.ac.jp
理工学研究科	理工学部・理工学研究科事務局	077-561-2624	rikou-in@st.ritsumei.ac.jp
生命科学研究科	生命科学部・生命科学研究科事務局	077-561-5021	in-gsls@st.ritsumei.ac.jp
薬学研究科	薬学部・薬学研究科事務局	077-561-2563	gsph@st.ritsumei.ac.jp
経営学研究科	経営学部・経営学研究科事務局	072-665-2090	gsba-1@st.ritsumei.ac.jp
政策科学研究科	政策科学部・政策科学研究科事務局	072-665-2080	gsps-adm@st.ritsumei.ac.jp
人間科学研究科	総合心理学部・人間科学研究科事務局	072-665-2190	sinri01@st.ritsumei.ac.jp
映像研究科	映像学部・映像研究科事務局	072-665-2071	rugseizo@st.ritsumei.ac.jp
情報理工学研究科	情報理工学部・情報理工学研究科事務局	072-665-2076	gsise@st.ritsumei.ac.jp
テクノロジー・マネジメント研究科	OIC独立研究科事務局	072-665-2100	motkoho@st.ritsumei.ac.jp
経営管理研究科		072-665-2101	rbs-ras@st.ritsumei.ac.jp
法務研究科	朱雀独立研究科事務局	075-813-8270	rits-ls@st.ritsumei.ac.jp
教職研究科		075-813-8269	kyoken-s@st.ritsumei.ac.jp

窓口時間(ご質問・ご相談は以下時間内にお願いいたします)
(月～金)10:00～11:30、12:30～17:00
(夏期・冬期・春期休暇中)13:00～17:00
※土日祝、大学の一斉休業期間中は対応していません

■大学院全般、Ritsu-Mate操作に関するお問い合わせは…
 教学推進課 大学院入試担当
 075-465-8195 graduate-studies@st.ritsumei.ac.jp

MEMO

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

学費について(参考:2024年度入学者適用)

2025年度の入学者に適用する学費および諸会費は、2024年6月頃に決定する予定です。以下は2024年度の入学者に適用する学費を参考として掲載しています。
なお、本学の学費は、入学金と授業料で構成されています。

■ 入学金

(単位:円)

区 分	金 額
入学、転入学	200,000

※1 以下に該当する本学園出身者からは、入学金を徴収しません。
(1) 本大学または立命館アジア太平洋大学の学部を卒業または大学院を修了した者が、本大学院に入学する場合
(2) 本大学または立命館アジア太平洋大学の学部から引き続き本大学院に入学する場合
(3) 本大学または立命館アジア太平洋大学の博士課程に標準修業年限以上在学し、博士論文以外の修了要件を満たし退学した者が、本大学院に入学する場合
※2 入学金は入学年度のみ納入していただきます。

■ 2024年度入学者に適用する大学院授業料

注意：・ 社会的な情勢の急激な変化等、やむを得ない状況への対処として授業料の変更を行うことがあります。
・ 学費とあわせて、入学年度に諸会費の納入をお願いしています。詳細については、入学試験要項を参照してください。

〈4月入学〉

春学期授業料：4月1日から9月25日の授業料
秋学期授業料：9月26日から3月31日の授業料

〈9月入学〉

秋学期授業料：9月26日から3月31日の授業料
春学期授業料：4月1日から9月25日の授業料

※9月入学者が入学手続時に納入する授業料は、1年次秋学期授業料のみとなります。

【博士課程前期課程・修士課程】

(単位:円)

研究科		区分	1回生	2回生
法学研究科		春学期	394,000	394,000
		秋学期	394,000	394,000
		計	788,000	788,000
経済学研究科	Master's Program in Economic Developmentを除く	春学期	394,000	394,000
		秋学期	394,000	394,000
		計	788,000	788,000
	Master's Program in Economic Development	春学期	472,800	472,800
		秋学期	472,800	472,800
		計	945,600	945,600
経営学研究科		春学期	394,000	394,000
		秋学期	394,000	394,000
		計	788,000	788,000
社会学研究科		春学期	394,000	394,000
		秋学期	394,000	394,000
		計	788,000	788,000
文学研究科	人文学専攻	春学期	394,000	394,000
		秋学期	394,000	394,000
		計	788,000	788,000
	行動文化情報学専攻	春学期	405,100	405,100
		秋学期	405,100	405,100
		計	810,200	810,200

(単位:円)

研究科		区分	1回生	2回生
理工学研究科	数理科学コースを除く	春学期	604,100	604,100
		秋学期	604,100	604,100
		計	1,208,200	1,208,200
	数理科学コース	春学期	564,600	564,600
		秋学期	564,600	564,600
		計	1,129,200	1,129,200
国際関係研究科	国際関係学プログラム	春学期	394,000	394,000
		秋学期	394,000	394,000
		計	788,000	788,000
	Global International Relations Program	春学期	472,800	472,800
		秋学期	472,800	472,800
		計	945,600	945,600
政策科学研究科		春学期	394,000	394,000
		秋学期	394,000	394,000
		計	788,000	788,000
言語教育情報研究科		春学期	420,200	420,200
		秋学期	420,200	420,200
		計	840,400	840,400
テクノロジー・マネジメント研究科		春学期	612,500	612,500
		秋学期	612,500	612,500
		計	1,225,000	1,225,000
スポーツ健康科学研究科		春学期	446,500	446,500
		秋学期	446,500	446,500
		計	893,000	893,000
映像研究科		春学期	632,800	632,800
		秋学期	632,800	632,800
		計	1,265,600	1,265,600
情報理工学研究科		春学期	597,400	597,400
		秋学期	597,400	597,400
		計	1,194,800	1,194,800
生命科学研究科		春学期	597,400	597,400
		秋学期	597,400	597,400
		計	1,194,800	1,194,800

【博士課程前期課程・修士課程】

(単位:円)

研究科	区分	1回生	2回生
人間科学研究科	春学期	446,500	446,500
	秋学期	446,500	446,500
	計	893,000	893,000
薬学研究科	春学期	597,400	597,400
	秋学期	597,400	597,400
	計	1,194,800	1,194,800
食マネジメント研究科	春学期	415,100	415,100
	秋学期	415,100	415,100
	計	830,200	830,200

※1 3回生以降は2回生の授業料と同額。

※2 回生に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は該当する回生の半額。

【博士課程後期課程】

(単位:円)

研究科	区分	1回生	2回生	3回生
全研究科	春学期	250,000	250,000	250,000
	秋学期	250,000	250,000	250,000
	計	500,000	500,000	500,000

※1 在学期間が標準修業年限を超えた者の学費は上記の半額。

※2 ※1に関わらず、在学期間が標準修業年限を超え、大学院学則に定める各研究科の修了要件のうち、博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円。

【一貫制博士課程】

(単位:円)

研究科	区分	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生
先端総合学術研究科	春学期	420,200	420,200	250,000	250,000	250,000
	秋学期	420,200	420,200	250,000	250,000	250,000
	計	840,400	840,400	500,000	500,000	500,000

※1 6回生以降は5回生の授業料と同額。

※2 回生に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は該当する回生の半額。

※3 ※1に関わらず、在学期間が標準修業年限を超え、大学院学則に定める各研究科の修了要件のうち、博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円。

【4年制博士課程】

(単位:円)

研究科	区分	1回生	2回生	3回生	4回生
薬学研究科	春学期	250,000	250,000	250,000	250,000
	秋学期	250,000	250,000	250,000	250,000
	計	500,000	500,000	500,000	500,000

※1 在学期間が標準修業年限を超えた者の学費は上記の半額。

※2 ※1に関わらず、在学期間が標準修業年限を超え、大学院学則に定める各研究科の修了要件のうち、博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円。

【専門職学位課程】

(単位:円)

研究科	区分	1回生	2回生	3回生
法務研究科	春学期	686,700	686,700	686,700
	秋学期	686,700	686,700	686,700
	計	1,373,400	1,373,400	1,373,400
経営管理研究科	春学期	655,200	655,200	
	秋学期	655,200	655,200	
	計	1,310,400	1,310,400	
教職研究科	春学期	472,800	472,800	
	秋学期	472,800	472,800	
	計	945,600	945,600	

※1 在学期間が標準修業年限(法務研究科においては2年修了課程は2年、3年修了課程は3年)を超えた者の授業料は上記の半額。

CHECK IT

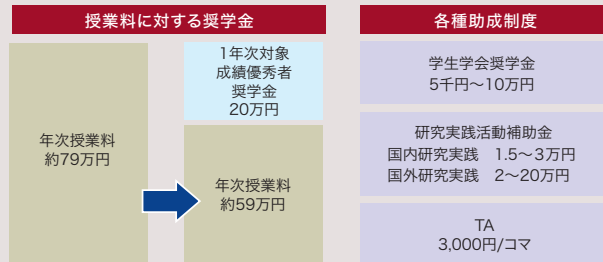
奨学金・助成制度の利用例(法学研究科の例)

本学では、授業料に関する奨学金に加えて研究活動に対する給付型の助成制度を多数取り揃えており(11ページ)、奨学金・助成制度は2人に1人が利用しています。以下は2024年度の法学研究科の例です。2025年度入学者に適用される制度は変更になる可能性があります。

博士課程前期課程1回生

■「1年次対象成績優秀者奨学金」を受給した場合

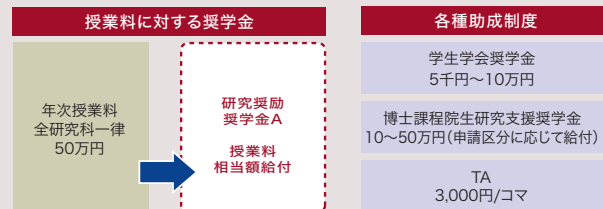
入学試験成績上位者に支給される「1年次対象成績優秀者奨学金」(20万円給付の場合)を受給した場合、授業料は約59万円となります。あわせて各種助成制度を利用することで、さらに経済的負担は軽減されます。



博士課程後期課程1回生

■「研究奨励奨学金A」を受給した場合

優秀な研究業績に応じて給付される「研究奨励奨学金」はA給付に該当すれば授業料相当額の奨学金が給付されるため、授業料は実質免除されます。また、各種助成制度も利用することができます。



■国や外部機関の奨学金および家計急変奨学金・教育ローン

以下奨学金等の詳細については、本学奨学金ウェブサイトを確認してください。
また、内容が変更になる場合がありますので、必ず当該年度の募集要項を確認してください。

■日本学生支援機構貸与奨学金 ※ 第一種奨学金貸与者のみ「特に優れた業績による返還免除」の制度あり(申請受付は2月)

対象	本学大学院に在学する者。ただし、留学生・標準修業年限を超えて在学する者を除く。	
貸与月額	●博士課程前期課程、修士課程、専門職学位課程、一貫制博士課程1・2回生 第一種(無利子): 月額5万円、8万8千円より選択 第二種(有利子): 月額5、8、10、13、15万円より選択 ※法務研究科の最高月額選択のみ増額可	●博士課程後期課程、一貫制博士課程3～5回生、4年制博士課程 第一種(無利子): 月額8万円、12万2千円より選択 第二種(有利子): 月額5、8、10、13、15万円より選択

■民間財団、地方公共団体等の奨学金事業(学校推薦群)〈一般公募群〉

対象	本学大学院に入学予定の者、在学する者。
学校推薦群	給付型/募集時期: 2月下旬(一括募集)
一般公募群	給付型・貸与型/募集時期: 随時各財団の締切による(自由応募)

■家計に急変が生じた場合の奨学金

入学後に家計の急変が起きた場合の奨学金制度は、大学独自の制度や日本学生支援機構の制度があります。急変事由により出願要件が異なります。

■各種教育ローン

低金利で利用できる教育ローンを紹介しています。

●日本政策金融公庫(国の教育ローン) ●セディナ(学費ローン) ●オリコ(学費サポート) ●滋賀銀行(ジャストサポート提携ローン)

経済支援奨学金
ウェブサイト



大学院入試 出願の流れ

STEP 1

入学したい研究科を決める

立命館大学大学院には、幅広い研究分野に対応する多数の研究科があります。
あなたが希望する研究分野を扱う研究科は、一つとは限りません。
まずは自身の研究分野の<キーワード>に関連する指導教員を【立命館大学研究者学術情報データベース】で検索し、
教員の所属する研究科の中から検討することをお勧めします。

POINT

- ・立命館大学研究者学術情報データベースで検索
<https://research-db.ritsumei.ac.jp/riithp/TOP>
出願前に希望する指導教員を決める研究科もあります。
入学試験要項で、各研究科の出願方法をご確認ください。



検索方法

- 1 興味を持っている研究
内容や分野について、
キーワードを入力して検索
- 2 検索したキーワードに関連する
研究を行っている教員の一覧が
表示されます。
キーワードがマッチしている
教員の名前をクリックしてください。
- 3 所属している研究科・研究テーマなど、
教員情報の詳細が表示されます。
各研究科のウェブサイトには、カリ
キュラムの特徴や教員などの情報が詳
しく紹介されています。候補の研究科
が決まったら、研究科ウェブサイトにも
アクセスしてください。

立命館大学 ○○研究科 検索

The screenshot shows the Ritsumei University Researcher Academic Information Database interface. It includes a search bar, a list of search results, and a detailed view of a faculty member's profile. The profile view shows the faculty member's name, affiliation, and a list of their research interests and publications. Red circles and arrows highlight key features: 1. Search bar, 2. Search results list, 3. Faculty profile details, 4. Research interests, 5. Publications, 6. Contact information.

STEP 2

入学試験要項を確認する

研究科別の「入学試験要項」と、各研究科共通の注意事項を記載した「入学試験要項(研究科共通)」があります。
入学試験要項ダウンロードサイト <https://www.ritsumei.ac.jp/gr/exam/point.html/>

POINT

- ・入学時期をチェック
「4月入学」「9月入学」があり、研究科や入試方式などによって異なります。
- ・入学試験方式を検討
各研究科に、様々な入学試験方式があります。自身の条件にあった方式を検討してください。
- ・出願資格・出願書類の確認
出願資格を満たさない場合、事前の個別審査によって出願を認める場合があります。
出願資格をよく確認して、必要な場合は個別審査申出期限までに申出を行ってください。



よくある質問

Q. 事前に指導を希望する教員と連絡をとる必要がありますか？

A. 研究分野のミスマッチを避けるため、教員への事前相談を求めている研究科や入試方式がありますが、事前相談の可否は入学試験要項に記載しています。希望する研究科の入学試験要項をご確認ください。

Q. 指導を希望する教員と連絡をとりたいのですが。

A. 「立命館大学研究者学術情報データベース」や各種ウェブサイト上にメールアドレスを公開している教員については、相談事項を明確にしたうえで、連絡をとっていただくことができます。
公開されていない場合は、志望している研究科の事務室に問い合わせてください。なお、個別の問い合わせに応じていない教員や研究科もありますので、あらかじめご了承ください。

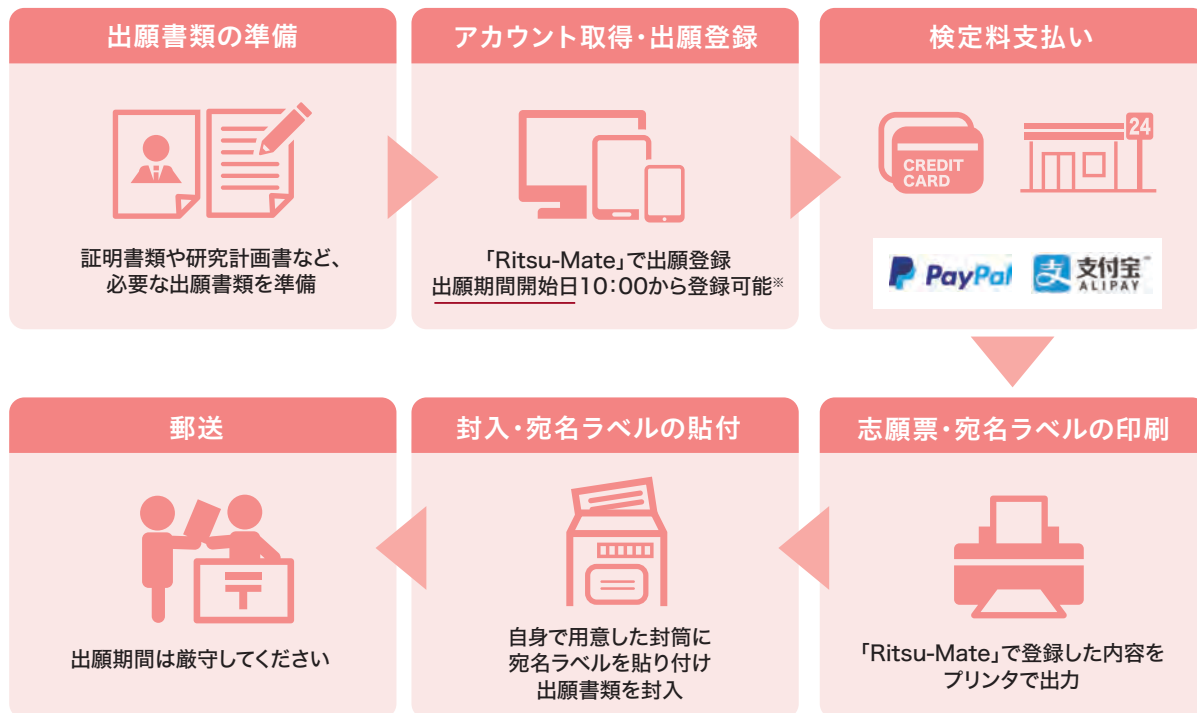
STEP 3

出願する

立命館大学大学院インターネット入学システム「Ritsu-Mate」(リツメイト)を使用します。 ※一部入学試験方式を除く



「Ritsu-Mate」



POINT

- ・アカウントは出願期間前でも取得できます。事前に取得しておくことをおすすめします。
- ・「Ritsu-Mate」の入力だけでは、出願手続は完了しません。
- ・研究科・入学試験方式によって一部上記と異なることがあります。各研究科の「入学試験要項(研究科別)」で確認してください。

STEP 4

受験準備～受験

「Ritsu-Mate」を使用して出願した場合、受験票は「Ritsu-Mate」からダウンロードできます。書類選考など、試験日設定の無い試験の場合も、受験票をダウンロードして受験番号を確認することができます。

POINT

- ・「Ritsu-Mate」を通じてお知らせが送信される場合があります。
- ・災害等により、「試験予備日」に入学試験を延期することがあります。

よくある質問

Q. 入学試験の過去問題は公開していますか？

A. 「立命館大学大学院 入試情報サイト」で、過去2年度分の入学試験問題を公開しています(一部、著作権等の理由により閲覧できない問題があります)。また、各研究科の事務室でも、当該研究科の過去問題を閲覧できます。

※持ち出し・複写はできません。

STEP 5

合格発表

合格発表日の10:00(日本時間)に「Ritsu-Mate」にログインし、可否結果を確認してください。

入学試験方式によって、上記と異なることがあります。

アクセス

(2024年3月現在)

各キャンパスへの
交通機関



衣笠CAMPUS



JR・近鉄 京都駅 (烏丸中央口)	市バス (京都駅前)	50	42分	立命館大学前(終点)
	快速立命館		36分	立命館大学前(キャンパス内)
	205		38分	衣笠校前 徒歩10分
阪 急 西院駅	JRバス (京都駅)	高雄・京北線	30分	立 命 館 大 学 前
市営地下鉄 西大路御池駅	市バス (西大路四条)	205	13分	衣笠校前 徒歩10分
	快速立命館		15分	立命館大学前(キャンパス内)
京 阪 三条駅	市バス (西大路御池)	205	9分	衣笠校前 徒歩10分
	快速立命館		11分	立命館大学前(キャンパス内)
J R 円町駅	市バス (三条京阪前)	15	34分	立命館大学前(終点)
	59		40分	立 命 館 大 学 前
	市バス (西ノ京内町)	15	10分	立命館大学前(終点)
	快速立命館		8分	立命館大学前(キャンパス内)
	204		5分	衣笠校前 徒歩10分
	205			
京福電鉄 等持院・立命館大学 衣笠キャンパス前駅			徒歩 6分	

立命館大学

びわこ・くさつ CAMPUS (BKC)



京 阪 中書島駅	京阪バス (京阪中書島)	直行便	35分	
J R 大阪駅	JR 新快速 50分	土日祝・学休日には運行しません。		
J R 京都駅	JR 新快速 20分			
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄(京都駅経由)	立命館大学行き または 立命館大学経由 松ヶ丘五丁目行き 県立長寿社会福祉センター行き	20分	
J R 三ノ宮駅	JR 新快速 70分			

立命館大学

大阪いばらき CAMPUS (OIC)



J R 大阪駅	JR 快速 14分	J R 茨木駅	徒歩 5分
J R 京都駅	JR 新快速 12分	JR 高槻駅	快速 5分
J R 三ノ宮駅	JR 快速 41分	J R 茨木駅	
阪 急 大阪梅田駅	阪急 準急 18分	阪 急 南茨木駅	徒歩10分
阪 急 京都河原町駅	阪急 特急 26分	阪急 茨木市駅	阪急 2分
モノレール 門真市駅	14分	モノレール 南茨木駅	徒歩10分
モノレール 大阪空港駅	21分	モノレール 宇野辺駅	徒歩 7分
京 阪 枚方市駅	京阪バス (枚方市駅北口)	45分	立命館大学(岩倉公園前)
阪 急 茨木市駅	京阪バス (阪急茨木)	7分	立命館大学(岩倉公園前)

立命館大学

大阪梅田 CAMPUS (大阪富国生命 ビル5F・14F)

J R 大阪駅	JR南口 徒歩 5分	
阪急・阪神 大阪梅田駅	阪急中央改札口／阪神東改札口 徒歩 5分／徒歩 3分	
地下鉄御堂筋線 梅田駅	南改札口 徒歩 3分	
地下鉄谷町線 東梅田駅	北東改札口 徒歩 1分	

立命館大学

朱雀CAMPUS



JR・近鉄・地下鉄 京都駅	JRまたは地下鉄(烏丸御池乗換)	JR・地下鉄 二条駅	徒歩 2分
	約10分		
阪 急 大阪梅田駅	阪急	阪 急 大宮駅	徒歩10分
	40分		

立命館大学

キャンパスを結ぶシャトルバスも運行中 正課、また課外活動に参加する本学学生のために、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス(BKC)、大阪いばらきキャンパス(OIC)を結ぶシャトルバスを運行しています。

アクセス方法の詳細は、上記QRコードを読み込みウェブサイトでご確認ください。

まずはウェブサイト、各種イベントで
立命館大学大学院のことを知ってください。

イベント 情報

立命館大学大学院への進学をお考えの方に向けて、
各種イベントを実施しています。是非ご参加ください。

●大学院進学説明会

研究科合同のイベントとして、春と秋に開催します。

- ◆実施内容・研究科紹介、研究指導体制、カリキュラム、入試等の説明。
直接研究科の教職員に相談ができる機会です。
また、現役の大学院生と懇談できる場合もあります。

(上記は予定であり、日程によって参加研究科や実施内容が異なります。詳細はウェブサイトでご確認ください。)

●研究科別入試説明会

研究科主催で個別説明会を実施します。

開催日程については、ウェブサイトをご確認ください。

●大学院ウィーク

各キャンパスにて「大学院」に関わる企画を集中した期間に実施します(大学院授業・施設見学、教員・修生・大学院生との懇談や相談会、大学院に関わるセミナーなど)。低回生にも大学院のことを知ってもらい機会ですので、お気軽にご参加ください。日程や企画内容はウェブサイトでご確認ください(一部の企画は学内生に限る場合があります)。



ウェブ サイト

立命館大学大学院に関する情報について、「立命館大学大学院 入試情報サイト」から確認することができます。入学試験要項のダウンロードやインターネット入学システム「Ritsu-Mate」へのリンクの他、イベント情報、過去問題、教員情報等についても掲載しています。

入学試験要項
(出願書類)
過去の入試結果
過去問題

インターネット入学システム
「Ritsu-Mate」へのアクセス

大学院進学説明会
大学院ウィーク

研究科ウェブサイトへの
リンク

- ◆立命館大学
研究者学術情報データベース
こんな研究はどの研究科でできるの？
この先生はどの研究科？
などが調べられます。
・キーワード検索
・名前検索
・所属別一覧
・研究分野別一覧 など...

教員情報の検索



ウェブサイトの情報・構成は
変更されることがあります。
○2025年4月入学の入学試験要項は
2024年4月中旬公開予定です。
○2025年9月入学の入学試験要項は
2024年10月下旬公開予定です。

立命館大学 大学院 入試情報サイト

検索

URL : <https://www.ritsume.ac.jp/gr/>



大学院案内

立命館大学 大学院 入試情報サイト

検索



詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。<https://www.ritsumeai.ac.jp/gr/>
本内容に掲載されている内容については、変更または中止される場合があります。

本誌におけるインタビュー記事およびメッセージ記事について、所属・役職、回生、教育組織・プログラム、活用した奨学金・支援制度名称等は取材当時または在学当時のものであり、現時点において最新の情報ではない場合があります。



2024.04